京城日報

定價（郵税共）毎號一部金五錢▲壹ケ月前金一圓三十五錢▲三ケ月同三圓九十錢▲六ケ月同七圓六十錢▲郵券代用一割増

廣告料 五號十六字詰一行一圓三十錢 五號同特別二圓六十錢▲二號八字詰同二圓六十錢▲四號十字詰同二圓

發行兼編輯人 泥谷良次郎
印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通二丁目 合資會社京城日報社
電話長六千九番、長六千九番二 振替京城三〇〇番

華盛頓會議
會議最後の決定期に入る

【華盛頓一日上田特約員發電】海軍制限に對する佛國の態度と極東問題とは開會以來最大の難關となり華盛頓會議は今や新年に入り其他二三の問題と共に過去の協定に對し最後の決定を告げんとするに至る二ケ月に亘り論議されたる問題の實際的效果如何が決定すべき最大難關に入るべし軍備制限問題は極東問題に關係なる難關なるべしヒューズ氏は更に會議解決に對する最後の努力として英國首相を迎へブリアン氏と熟議するやも知れずと信ぜらる

日本の肚の中
極東資源開發協定締結問題

【華盛頓一日上田特約員發電】支那全權は本國の軍備猛烈にして會議より脱退を迫る飛報續々來りつゝある旨傳へ居りこれ恐らく山東問題に對する支那最後の策が今週中に來るべきを豫想しての一種の宣傳と認めらるゝが右により支那は會議に於て緊張せる一幕を演ずるやも知れず尚西伯利問題あるもヒューズ氏は海軍問題さへ決せば他は一瀉千里に片付くべき氣なり日本として極東資源開發を目的とする經濟的協定締結の大問題を有し居れり

海軍協定既に完成
會議の暗礁は山東問題

【華盛頓電報】海軍專門委員は新年も休まず活動をつゞけ各專門的立場より最も困難を極めたる五大國海軍協定は既に完成し又六國協約のヤップ島協定も今週中に調印さるべしと思はるゝ會議の暗礁として殘る所は唯山東問題なるが米國の輿論は日本側に傾き居れり

海協各國共請訓中

【華盛頓電報】本會議は海軍制限の諸決定につき各國全權が各本國政府より訓電を受くる迄休會し各國政府とも之に異議なければ海軍協定は全體會議にて調印せらるゝ筈なり

民主黨と四國協約

【華盛頓電報】四國協約につき三十一日ロッヂ氏は民主黨の二三領袖と會合し如何なる保留案も不可なる態度に決したり民主黨首領ヒッチコック氏は會議の終了を待つと云ひ居れるが蓋し民主黨の居む所は四國協定のみならざる事は勿論なり

閉會は一月廿日頃

【華盛頓電報】海軍問題は今週を以て愈決了に向つて大進展を見るべしと期待せらる主なる全權は今週末本國に出發し徳川全權は一月六日出發すべし華府會議の閉會は多分一月廿日ならん

齊多側の捏造文書

【華盛頓一日上田特約員發電】齊多代表は本日當地に於て突然捏造の文書を發表し一時論界を騒がしたり曰く「日、佛、露三國間に密約あり西伯利が過激派の手よりはなれたる時日本は西伯利の支配權を得べし又日佛間交換文書の寫しなるものもあり右に依れば佛國は華盛頓會議に於て西伯利問題の論議さるゝ場合は一切日本と協同して亞米利加の政策に對抗すべし日本は佛國の高等學論を唱へ佛國は日本の政策を支持せり」と右に對し佛國全權は其全然無根なる事を聲明し捏造を反駁し佛國代表も其無根なる事を聲明したり

列國委員の華盛頓引揚準備

【華盛頓電報】列國全權委員は多く一月下旬歸國すべき準備をなし居れり英國全權バルフォーア氏は十四日佛伊兩國委員は十八日出發歸國の途に着くべく日本委員は數回に分れて出發する筈にて其多數は一月下旬出發の筈なり

別報

【華盛頓電報】日佛兩國委員が否認するに拘らず齊多政府の使節なるものは日佛兩國間に西伯利と露西亞に關する協定あることを主張し居れり尤も佛國側にては日佛兩國が露國の主張を壓迫するため又は米國の東洋に於ける利益に對抗するため秘密協約を結びたりとの非難は實際無根とし居れり

物々交換借款計畫

【巴里電報】歐洲經濟專門家會議は國際借款團組織を發起したり這は私有資本を以て組織し政府の援助を得る筈なり英國の主なる目的は物々交換法により露獨國民との通商を恢復し生産國と貧困消費國民との間に物々取引を行はんとするにあり右計畫は最高會議にて可決された上歐洲經濟會議にて委細取極める筈なるが右資本は數千萬磅とする由なり

英佛間の感情和らぐ

【華盛頓電報】佛國全權サロー氏は演説して佛國は英國に對し敵對的目的ありとの説を否認し佛國は國防的潜水艦政策を採用する意向なしと言へり英佛間の感情之が爲め大に緩和されたり

山東交渉公開主張

【華盛頓電報】日本が無制限にて山東鐵道を還附する事を拒絶したるため支那委員との間に確執を惹起し支那は之を公開會議に提出すべしと揚言し居れり然るに日本委員は本件は未だ考慮中なりと主張し更に關係委員の手にて審議せん事を要求し居れり

張作霖氏歸奉

【奉天電報】張作霖氏は三日夜入奉の答列車にて北京より歸奉し沿道各驛の盛大なる歡迎を受け城内に入れり

水野總監東上
來十日過ぎ

水野政務總監は伊藤秘書官を隨へ來る十日過ぎ出發東上第四十五議會に列席の爲め來る十二月末頃歸任すべしと

國民的試練の首途（下）
華府會議と經濟界の影響
鮮銀總裁 美濃部俊吉

而して軍備縮小及之に伴ふ生産工業の發展が如何なる程度の影響を朝鮮に及ぼすかと云ふと朝鮮地方は之れに依つて急激なる餘波を蒙るやうな事はあるまいと思ふ寧ろ内地經濟の發展に伴ひ必ず良好なる影響の來るものと信ずるのである之に關聯して目下國民生活上の

物價及勞銀

問題は其何れが先に下落するか今の處職工と雇人と兩々相對峙の形を演らして居るが其内のどちらかゞ先づ値下に依る苦痛を忍ばなければならぬとすれば先づ職工が其苦痛を忍受しなければならぬ。なるまい物價先づ下落して勞銀が下らぬとすれば生産工業及貿易の發達を害し内地の需要のみを目的として成立して居る事業は破壞される事になる故に職工は自己の爲めに忍んで事業の成立する程度に勞銀の値下を忍び之れに依つて物價の下落を誘導し物價を世界の平準まで引下げる方法を執らなければならぬ軍備縮小は軈て工業界製藥界に一

新紀元を劃

する事となるべき事は一日も早く其苦痛を忍受する爲め忍ぶ所がよろしい而して軍備縮小の結果各國は軍需工業に於て今の熾烈な競爭を開始するであらう現に獨逸製品の如きは非常の安價を以て市場に現はれて來た獨逸人は其窮くべき精力を傾倒して自國の疲弊を恢復すると共に將來世界の市場に大活躍を爲すであらう獨逸人は十四五世紀以來はナポレオン戰爭及七年戰爭等に依り非常の悲境に陷り貴族達に至るまで日の食糧にさへ窮へる程度にまで降つた殊に國家統一の中心となつて活躍したプロシヤ國王家の如きは非常の忍耐を以て

困苦と缺乏

に耐へ質居ルイザの生活の簡素であつた事は今も語り傳へられて居る位でもある斯くの

海軍に大斧鉞を加ふ
諸般施設の縮小＝人員淘汰
加藤海相聲明

【華盛頓一日上田特約員發電】海軍協定に伴ふ人員淘汰に關し加藤海相は涙をふるつて上級に大斧鉞を加へ下級となるに從ひ淘汰を少くする方針にて省内の施設は此際思ひ切りて縮小し又旅順をはじめ二三要塞に對し大斧鉞を行ふ方針なりと聲明せり

華府會議秘密會片々
華府にて特約員 上田碩三

十一月十六日の極東委員會に提出された支那の要求十ヶ條は米國輿論の勸告で成つたもので同國がランシング氏の手に成つた者である事は何人も首肯する所である特に巴里會議以來支那と關係淺からざるラ氏は今や華盛頓に於て事務所を開いて東洋問題の研究に沒頭して居る其一切の費用が何處から出るかなどは必ずしも穿鑿の限りではないが此際支那が十ヶ條の要求を出したに就てはセンセーションを起すに足らなかつた、只此の十ヶ條が米國側と日本側の解釋に基くものか、換言せば支那の要求は結局米國の意見なりや否やは一時新聞記者仲間の問題となつたは米國新聞記者側ではヒューズ氏こそ露骨にすべき筈なのに支那が先鞭を附けたのは不都合だと云ふものもあつた然し實際に於て支那の十ヶ條は何等米國代表の關知する所ではなかつた、勿論之を提出するに當つて支那側は豫めヒューズ氏の承諾は之を認めたヒューズ氏は委員長として支那の問題を議するのだから問題の本體たる支那側の要求を聞くことは當然として之を許した十七日の委員會は劈頭バルフォア氏から秘密會たるべき本委員會の内容が悉く米國新聞に暴露せらるゝを指摘し其結果各國の全權以外の事務官は會議の事務長たるバレット氏を除き他は悉く退出するやうな滑稽を演じた、軈て議事に入り支那の十ヶ條を如何にするかの問題となるや英國は先づ之を討議の基礎とするに反對し、次で佛國も英に賛成した結果一ヶ條の中の第四條及第五條は之を討議することに最も危險なるものと考へたるに日本は何等積極的の意見を述べず唯英のバルフォア佛のブリヤン氏等が支那の要求を一蹴したのは興味ある現象である結局米國側も英佛の意見に全く同意で結局は米國政府の態度を聞き届けて欲くと云ふ事に決した、示した意見を基礎として支那の要求を越えて廿一日四大原則を提出したルート氏の態度は陳乎たるものがあつた、既に各國の對支態度を測定し諒り、於ても斯時を測つて切つて離して仕舞った三…

朝鮮銀行
下半期業績
豫定の利益を擧ぐ

大正十年下半期の朝鮮金融界に於ける著しき事象は内地財界の中間景氣の影響を受けて鮮內中央銀行たる鮮銀の態度に終つたのである從つて鮮銀の變化を生じたことは自然の成り行きと見て差支なからう即ち鮮銀發券高は九月中旬以降日増に増加し期末には三億三千六百萬圓に上り前期末に比し約三千八百萬圓の膨脹を告げ其他當期の貸出高も前期末に入りてより日々増加の傾向を辿りて期末に至り是亦五千萬圓以上の膨脹を示して居るしながら鮮銀は此間整理と内部充實とに努力し前途の事情を豫想して對策を講じたためにや不得已資金を出したからして別に中間景氣に災せらるゝことなく豫定の利益を上げたので

半島の煙草專賣（下）
生産と供給上の改善に就て
總督府專賣局長 青木戒三

斯くして堅忍不拔の鬪爭は遂に其勝利の彼に歸して大戰前迄のあの強大なる國家を成就したのであつた獨逸人は斯くの如き試練を經て居る夫れ故に彼等は非常の困難に對して非常の勇氣を以て居る我日本人は從來餘りに平和であつた大なる國民的苦痛を嘗めて居らぬ困苦缺乏に堪ゆる大なる試練を經て居らぬ今や華府會議を經て我が國の立場が如何になりつゝあるやを直觀したならば國民の覺悟として居る時ではあるまいと思ふしかるに國民の覺悟に關ることなく交々眼前の利を逐ふて國外亦頗る一徹せなければならぬ

世の思潮は

物價問題よりも失業問題よりも國家の爲め徒らに外來の新思想に趨へぬ事と思ふ明治の維新の國難に際しては敢然として猶は何等の恐怖なく國民的自覺が強烈で國民の統一せる意志は遂に國難を漸次今日の國家を築いたのである希くは國民悉く今日の我國家が世界の中に如何なる立場にあるやに自覺し而して今日の趨向を以てすれば遠き十年に於て如何なる情勢を招來す可きかに想到し確固の意見を有する所の如き

るは朝鮮の習俗に鑑み實に止むを得ざるに出でたのであるが、此の寛大なる取扱ひは專賣の本旨に背戻して居る上の驚きたること勿論なり甚しく、且つ斯かる原始的習俗は生活の向上と相俟つて漸次之れを矯正しなければならぬ、因襲の久しき一朝にして之を禁止するときは其苦痛堪へがたきものあるべきを察し、暫らく之を寛假したので近き將來に於て政府は之に代るべき完全煙草を製造し勿論に比し安價に貫かす方法を講じ漸を遂うて此等原始的習俗を打破し眞に專賣の理想郷に到達せむとするの計畫である。

嗜好に適する製品を按出する

而して製品に就て徒來各會社の居位に商略を弄して頗る多種多様の製品を出したるが、政府は專賣實施と共に之を整理し從來の各會社の營業に於ける所謂代表製品なるもの約十三種數を採り、兩切、口付共に各四五種宛に統一し更に改善を加へて各地需要の種粹に充てたりと雖も、各地人情、習俗を異にするが如く好みも亦自ら差異ありて普遍的に嗜好に恰適する製品を出すとは不可能である。元來朝鮮產葉煙草は一種の燻性辛味を帶て一部人士の嗜好を惹ふは免るべからざる所であるが、朝鮮人に在りては斯の固有の辛味を却て喜ぶ傾きありて勞働者、勞役者等の需要が最も多い品である。從來民營時代に於て幾多の新製品を出して此等嗜好に迎合せむと試みたる苦心を要する所であった、

販賣機關の分布

を完全する

煙草の販賣に就ては各販賣組合の下に種製の地に元賣捌人を設け日下株式組織のものを併せて其總數四十九。然して小賣所數二百八十有餘を算すと雖も、製品供給上に更に其の職務を果し適當の配合を行ひ猶は煙草を販賣する所でない所もあるが此等不便の解消に努め…

人事消息

▲櫻井小一氏（殖銀理事）一日出發黄海道信川に旅行中の處三日夜歸城
▲中村光吉氏（同上）三日夜出發釜山に旅行六日朝歸城の豫定
▲深尾道恕氏（同上）一日出發大邱慶州釜山へ旅行五日夜歸城の豫定
▲渡邊彌幸氏（殖銀農業課長）同上
▲森悟一氏（殖銀業務課長）一日出發滿洲に旅行四日朝歸城
▲野田新吾氏（殖銀鑑查課長）同上

東西南北

▲大阪勞働學校計畫進捗　勞働者の文化講座を目的として日本勞働總同盟關西勞働同盟會にて計畫中の大阪勞働學校は寄附行爲に就ての認可が下らない爲め進捗しなかつたが愈々御用始めの今日中に出來上るであらう▲社會事業に貸出　遞信省では右々の中に…社會事業に對して貸出をする事に決定した
▲神戸市（實費診療所）二十五萬圓▲滋賀縣堺市實費診療所三萬三千圓▲高知縣今津町住宅二萬九千五百圓▲香川縣坂出町（住宅）▲三萬圓▲龜山市（住宅）二萬二千圓▲（住宅）十萬圓▲廣島市（防火宣傳老館）東京市京橋區南鍋町二丁目三越前より▲防火宣傳…十二月下旬大阪に到着して中國四國九州方面巡回の筈

株式（四日）
現株市場出來值

東京株式市場は大發會の四日前場は三百五十以下…百八十六圓四十七錢にし當期繰越金五十一萬八千八百七十三圓四十六錢を加へ合計四百四十一萬三千八百十九圓九十三錢となる其の配當及積立をなし得るものと想像せられて居る

銘柄	前場 今週中	前場 來週中	後場 今週中	後場 來週中
京取	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
仁取	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鮮銀	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
殖銀	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同新	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
商銀	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同新	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
漢銀	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同新	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
朝鐵	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
東拓	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同新	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
鮮土	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
朝紡	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
滿毛	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
京電	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

乙の部

銘柄	寄付	大引
京信	[illegible]	[illegible]
安取	[illegible]	[illegible]
大新	[illegible]	[illegible]
上取	[illegible]	[illegible]
新東	[illegible]	[illegible]

短期取引

銘柄	寄付	大引	高値	安値
京取	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
仁取	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大新	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
滿毛	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
朝紡	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
亞新	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
拓新	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
安取	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

六日受渡株出來値

京取	一〇一、三〇
信託	一一九、八〇
安取	三五、九〇

安東株式

	寄付	大引
四日前場 安取當先	三六、二〇	三六、二〇
廿六日場 安取當先	三三、九〇	三四、〇〇

東京現株

銘柄	四日前場	日後場
鮮銀	[illegible]	[illegible]
同新	[illegible]	[illegible]
東拓	[illegible]	[illegible]
同新	[illegible]	[illegible]
滿鐵	[illegible]	[illegible]
殖銀	[illegible]	[illegible]
同新	[illegible]	[illegible]
東株	[illegible]	[illegible]
同新	[illegible]	[illegible]
東取	[illegible]	[illegible]
滿毛	[illegible]	[illegible]
朝紡	[illegible]	[illegible]

大阪株式

銘柄	四日前場寄付	後場大引
大株	[illegible]	[illegible]
同新	[illegible]	[illegible]
郵船	[illegible]	[illegible]
同新	[illegible]	[illegible]
商船	[illegible]	[illegible]
同新	[illegible]	[illegible]
鐘紡	[illegible]	[illegible]
同新	[illegible]	[illegible]
東紡	[illegible]	[illegible]

大阪延取引

銘柄	四日前場寄付	大引
大新	二二五、五〇	二二五、二〇
鐘新	三二七、九〇	三三五、〇〇
天取	八〇、〇〇	八〇、二〇
廿三日後場 大新	二二五、〇〇	[illegible]
鐘新	三三三、〇〇	[illegible]
天取	八〇、七〇	[illegible]

主要株步値取

	前場			後場		
京取	一〇一	五〇	一〇一	二〇		
安取	三五	九〇	三〇	四〇	三五	七〇
仁取	二六五	五〇	二七〇	一〇		

京取初立會
仁取躍騰

京取市場新春初立會は四日午前十時より開會せるが勞頭野本社長の挨拶に次いで非日仲買委員長の答辭あり恒例によりて來客仲買人共に席を設け終りて緊張一際の下に立會へ移る高人氣旺盛なるも内地株式界の今一段落ひ來らざる爲め京取短期百一圓五十錢迄今週百二圓來週百三圓と二極緊張なる相場を示し仁取は增資確定し增資額三百萬圓に對する調限は無條件となれりとて短期二百六十五圓今週同値來週二百七十圓と寄附前會に比し十七八圓方高値を示し一部人氣旺盛に短期二百十圓十錢と大引せり安取は依然買人氣にて短期三十五圓今週三十五圓九十錢來週三十五圓八十錢と寄附たるも三十六圓臺には賣物も相應にて鐵ま ん模様なりし京信は今週百十九圓八十錢來週百二十圓九十錢に寄付きしも百二十圓臺に乘せて大引せり其他銀行株は配當接近と鮮銀に買進まれたり

米況（四日）
仁川期米初相場

仁川期米四日の立會は暗中の正米軟弱を受け人氣めつきり安の折柄阪地三十七圓三十錢に生れ二節一錢に高値三十六圓八十九錢の安止を入れ

京城穀物
延取引初立會

玄米 春高氣分の初立會は期米の軟化したるに反し正米の不勝と期米の離れたる安人氣は限月の…しも一月末は三十…

…

東京期米

	四日前場先限	寄付	日後場先限
	三七、一〇	[illegible]	[illegible]

大阪期米

	四日前場 寄付	日後場 納會
當寄	三七、〇一	[illegible]
中寄	三六、七〇	[illegible]
止め	三七、八〇	[illegible]

兵庫期米

	四日前場寄付	日後場
二節	三七、〇〇	[illegible]

大阪三品

	寄付
二節	三六、六〇

群山正米

限月	四日前場寄付	前場大引
一月限	[illegible]	[illegible]
二月限	[illegible]	[illegible]
三月限	[illegible]	[illegible]
四月限	[illegible]	[illegible]
五月限	[illegible]	[illegible]
六月限	[illegible]	[illegible]

一月末中の商限米は十二錢丁度二月末二十錢現物一圓丁度にて出來（四日）

御會葬御禮　橫井武彦

謹賀新年
營業品目 綿糸、綿布、加工綿布、絹布（京摺）
大阪市東區南久太郎町二丁目
株式會社 八木商店
電話船場（自六一五番 至六二三番）
振替口座大阪七四七番
電報略號（ヤ）（ヲヲサカ、マルヤギ）
出張所 東京 橫濱 天津

月收千圓
大都會で斷片的に練習の出來る堅實の事業に特許を得て有利なる…大阪北區…國興業社

移轉開業披露
謹啓時下嚴寒之候各位益々御清榮ノ段奉慶賀候毎々格別ノ御引立ニ預リ難有御禮深ク感謝致シ候陳者今般弊店儀都合ニ依リ左記ノ處ニ移轉致シ正月四日ヨリ從前ノ通リ開業仕候間尚一層精々勉強致シ候ニ付多少不拘御用命ノ程伏テ奉願候
追テ新年宴會等ノ御會合ハ特別勉強可仕且迅速ニ不拘御用命次第調達御用可申候
明治町一丁目八二
支那料理 新世界
電話二八二番

防寒用ゴム靴
TRADE MARK
神戸市元町六丁目 三菱銀行前
合資會社 神戸屋ゴム商店
電話長元町一六九〇番
振替大阪二〇七四番

住友精製型銅 九九、七五%
住友電氣分銅 九九、九五%
右多少ニ不拘御注文被成下度候
大阪市東區北濱五丁目
住友合資會社製銅販賣店

帝國麥酒株式會社特約店
肥料 日本火災保險株式會社代理店
三好和商店
京城府本町通五丁目
電話一四五四番

小說卸賣
職業 ●熟練三圓位
不景氣知らずに安全第一の好副業は貸本です！一面白くて多く儲かる好職業は小説の貸本です！讀書の好率は今です。開業の好機は今です。同業少き地は鄕新大…口節約は日…豊國總本店
大阪市西區…樋口隆文館

動力節約一般用の最高品
大英斷破額提供
トーア式精米麥機は
…十五週年記念品提供
金參萬圓分
製造元 東亞物產社
大阪市西區…
電話…

常夏の國へ【臺灣視察團一行消息】
南行の列車中から
萬一乗り遲れたら釜山あたりでパンクした様な浮き目
馳せ付けた絹田君

午前九時に南大門で改札へをする事にしてある遲れては折角目出度い首途にも殘念として申譯がない例の騎馬坊の豫今日は岡から飛び降りる程の職務の樣子で大時中に床を離れ彼れ是れと準備して奥さんの手傳つて呉れた赤の御飯をかき込んで驛に滑くと社の大塚君が一人で玄關の料だと鷗と蜜柑と湯飲茶碗の世話をしてゐる先づやつて來たのは社の吉田君で夫人に送られ出日の腕章を着けて甲斐々々しい出立である總務の小山氏も昨夜は二時までやつたが今朝は職務して起きたと見えて眠さうな顔をしてやつて來た光永君は矢張起きて來たのでトンビは眠けぬと云つてゐる團員では都築君は十數名の店員に取り巻かれて賑やかに乗込んで來る第一銀行の都築君は可愛い嬢さんに送られて來る容貌魁偉の高木君がフロックコートでやつて來る横山君も見えた松本君も見えた中村君も見えた新井君も坂井君も來た赤尾團長は正月早々風邪で臥したとは云ひながら左樣とは受取れぬ程な元氣な顔をしてゐる是れなら團長の職務は大丈夫と幹事長から保險状を提呈する社からは藤村支局長を始めとして編輯局からも營業局からも續々と見送りに來る二三の婦人のお顔も見受られる發車の時間は漸々に迫つて來た庶務會計の重任を一手に擔つてゐる絹田君の姿が見えぬ車で迎へにやらうと云つてももう其餘の時間がない困つた事だ萬一乗遲れたら一行は釜山驛で自動車のパンクした樣な浮き目を見ねばならぬ旅費提ばかりではない支配人もドウしたんだらう故障でも生じたのではあるまいかと一緒になつて心配して呉れるサア皆さん乗車しませう發車も眼ますお急まり下さいと促されて心配しいくこんな事も直に濟んで一同はプラットフォームに出る驛を見らして眼を三寸ほど飛び出さして北方を恨めしさうに睨めてゐると車の上で匍匐でもしてゐる樣な顔で絹田君は飛んで來たドウした加減をしてゐると改札人に一本やられて聊かつたと云ふ風の顔をして驛をはづましてゐるマア來てさへ呉れゝばよい是で安心と一行に續いて歩廊に入る驛餞の知人や親戚の見送りもあつて南大門は一寸景氣が付いた總務に發辭を述べて貰ふ筈の豫定も汽笛で實行が出來ぬ發車の棚間で萬歳を三唱されて冬の國から夏の國へと出發する臨歳として總ての手續を終了して今朝同行するばかりになつてゐた藤尾君はどうしたものか姿が見えぬ止めたのか遲れたのか列車中から徹視で聞合せ返事を釜山で受くることにして乘込んだ一行は名刺の交換や同行の挨拶やに一トシキリ車内を往來して各其席に納まつた頃は汽車はもう成歡の近くを走つてゐた(殘月生)

旅行安全は『富久娘』
幸先よい首途なので正午は食堂車で雜煮を祝ふ

南大門假停車場も掲かん混雜の隙そ職務に紛いた顔と明るい心の人々を乘せて、ひたに走る。名刺交換がすれは我が藝藤團の顔ぶれの雄々しき首途を祝ふ人々の聲ある叫びであつたむと團員相互の間には家族的な温か親しみが出來て、未だ見ぬ憧憬の臺灣の郷土の話に花が咲く。新しき木の香漂ふプラットホームに送り出した數百の見送りの人々の姿が次第に小さく――やがて消え失せるまで團員は列車の窓から無理矢理に顔をつき出して、點し那離の名殘りに、その小さく消えて行く姿を見送つた。龍山驛をすぐると、列車は水原を過ぎる頃、都樂商會から一行に寄贈された『旅行安全』といふ新醸福の繪菰樽が配布される。恭しく開いて見ると旅行安全の繪繪と『富久娘』の雲の模と謂はれる。

鮮銀支店の歡迎宴【下關特電】

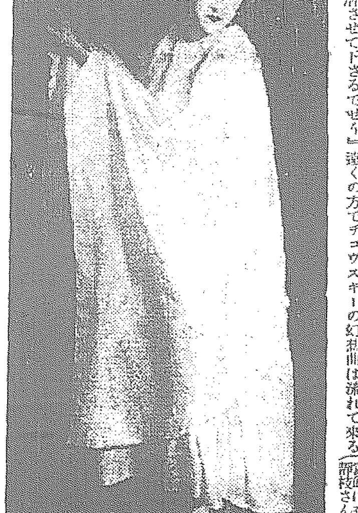
釜山出帆後穩きローリングありしも玄海洋は極めて平穩にて一行は各自臥室に安らかなる夢を貪り四日午前七時三十分下關驛着鮮銀支店長谷水氏外多數の出迎へを受て山陽ホテルに小憩朝食を採りたる後赤尾團長は一行に對し鮮銀支店の挨拶をなし午前十時同ホテル前にて記念撮影を了り引續き市内赤間宮門司よりの團體に參拝し午後一時下關公會堂に於ける下關支店長の招待午餐會に臨み大阪商船會社よりの挨拶を受け午後四時臺灣航路の滿洲丸に乘込み其際に向ふ一行の元氣旺盛なり

攝政宮殿下
親く萬機を聞召す
主務大臣以下侍下の下に政治の式を執行さる

攝政殿下今四日聖上陛下に代つて政治の御式を行はせらる當日は特に宮中東一の間を内閣に當てさせられた明治二年一月四日より引續き行はせらるゝ歴史ある儀式なれば高橋首相以下各國務大臣、府議長、中野會計檢査院長、岡野法制局長官、宇佐美東京府知事、三上書記官長、下條内閣書記官等通常禮服を着し、午前九時より東一の間に參集して殿下の出御を待つに殿下にはカーキ色陸軍通常服にて牧野宮相、入江東宮侍從長以下供奉の上内閣に臨御あり正殿の御座に着かせられ萬機を聞召されたるが此時内閣書記官は姫として殿下の御步前まで進み御覽に供し上より奏せることを讀みて御聽に達した神宮祭主より奏せる諸祭典に東宮殿下御名代の件及内大臣の儀に於ける宮内大臣牧野伸顯以下の御儀あり殿下には叡覽の後御起立した後殿下の御前に進み御前に於て各大臣は直に天皇あり最後に御座を退かせられて三十分政治の式は終了した

舞臺に凍死んでも悔いはない【京城に於て香川靜枝さん語る】

朝鮮に育まれた藝術の芽とも言ふべきオペラハウスは一月元旦より開演と共に京城人士の大人氣を集めて連日の滿員大入を續けてゐるそれは京城人士の滿足に投じたものであります、時代の趨勢にも依るのであるとの藝術座の久世洸氏は自分は以前より歌劇界の革命を叫むでゐるのです、夜間十二時頃まで演じてるといふ事は決して觀客に忠實とは言へません、自分は出來得る限り高尚な舞臺に從つて興行の使命を常緒にお應へしやうと思つてゐます、午後六時開演十時閉場といふ事は内地の各都市には既に勵行されてゐるものでありますと語つた舞姫『靜枝』は『私はこれ程までに京城の皆樣に愛して頂こふとは思ひませんでした、私は此の御好意に對して如何なる苦痛を凌ひでもお報いせねばならないと決心しました私の身に浸みる此の寒さも私は何とも思ひません、例ひ私は舞臺で凍え死にましても悔ゆる事はありません、若しそうしたら京城人士の熱愛はきつと私を復活させて下さるでせう』遥くの方でチコウスキーの幻想曲は流れて來る(寫眞は香川靜枝さん)



何事も言つて呉れるな
李晉殿下のお乳を差上げる 喜代子さんの悲しい身上

李王世子殿下の第一子に渡らせらるゝ李晉殿下の乳人を拜命した水戸市上市町一六〇四番地荒物雜貨商鈴木金一郎の娘喜代子(二七)は其後何の障りもなく御乳を差上げて居る、喜代子は國家の光榮に輝かしい内にも同女の行末を熱つては云はれぬ悲痛の涙に目をくもらせて居る、喜代子は水戸市立小學校全科を卒へてから東京神田北町の親戚に身を寄せて居るが虎治郎氏方へ身を寄せて居る大正八年の正月水戸市上市町化粧品卸小泉屋の小泉久作の息子に嫁いで一昨年九月喜榮と云ふ一子を儲けたが家庭は思ふに任せず喜代子は子を見るに至つたため里方へ戻つて居る内隣人からの話で乳の出るを幸ひ上京して乳母の事になつた一郎を訪へば同人も共に『喜代子からの手紙で乳人に上つて以來新聞に出たと何事も言つて呉れるなと云はれ一昨日縁を切つた小泉家でも心苦しい事だから誰にも言はぬと云つて居る李晉殿下と同い年の乳を欲しがるものを奪つらい事でせう』と語るに涙を堪へられなかつた

總督府の御用始式
齋藤總督より一場の挨拶

朝鮮總督府御用始式は四日午前十一時より本府第二會議室で高等官同待遇者及各所屬官署長列席總督は起つて『今四日より開廳致します諸君と共に益々職務して御奉公する事を希望します』と式は極めて簡單に終つた後引續き同會議室に於て新年宴會を開催し一同總督以下の式あつて後の本府廳舍ではモーニングや羽織袴に一しきり賑やつて自席に着いたが正午新年の禮に一同退廳した

京畿道 内務部、財務部、警察部は各部長以下一同會議室に會合し工藤知事は官吏服務規程を朗讀し新年に於ける抱負趣旨を述べ御用始めの式となした

高等法院 同樣形式の下に各部長以下一同に對し御用始めの式を擧行した

京城覆審法院 渡邊院長中村檢事長以下職員一同を會議室に集め御用始めの式を擧行した

京城地方法院 御用始めの式を擧行し各部課長以下課員一同に之を傳達した

京城府廳 京城府にては四日午前十時吉松府尹以下課長課員一同會議室に集合し新年の賀詞を述べ御用始めの式を擧げたり

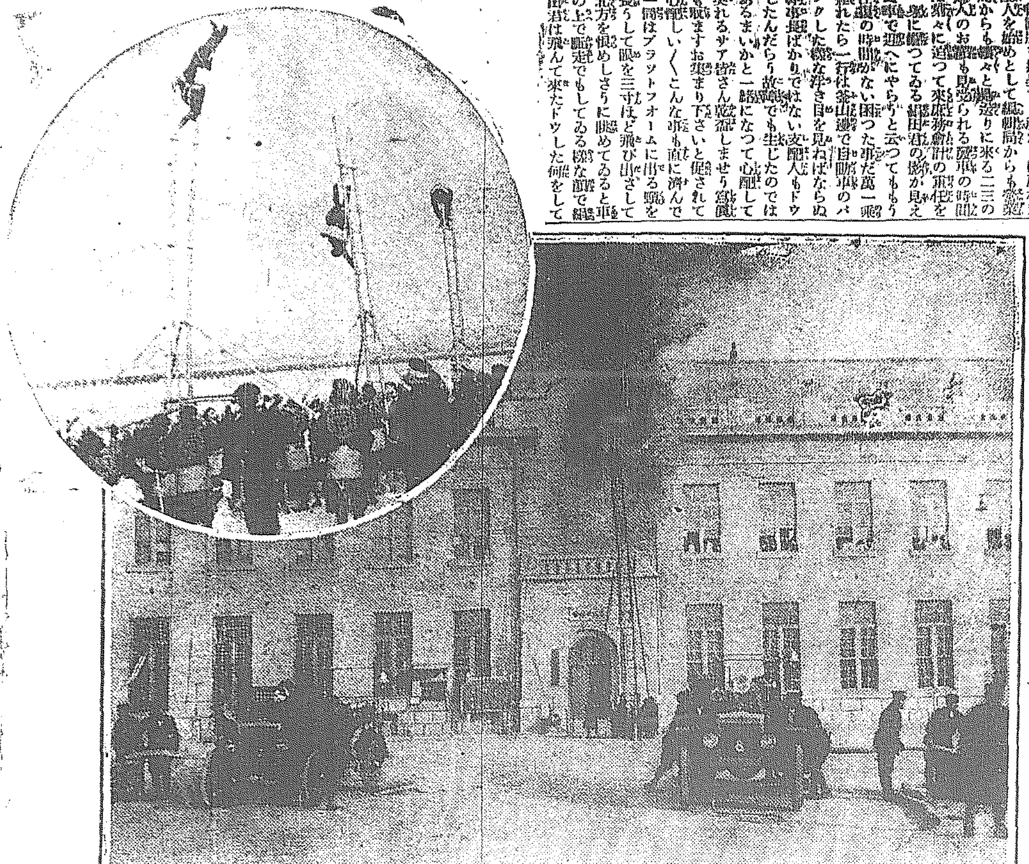
京城郵便局 京城郵便局で四日午前十時から新年御用始めの式を擧げたり

憲兵隊司令部 午前九時半京城本部憲兵隊長以下一同集合し前田司令官から勅語に基いた訓示を受けた後午前十時から勅語下賜記念日を祝ひ引續いて庭前に於て家族一同と新年の宴を催した

伊藤鐵道部長は朝鮮部へ其他は從前通りである

新春の曉雲に響く出火の警鐘
京城消防隊出初式
白煙濛々たる本社建物に四本のホースは集中された

新春の曉雲に響く警鐘の音に四日午前九時より京城消防隊出初式は本社前の大廣場で盛大に擧行された府廳前の來賓席には京畿道知事代理に上田警察部長、吉松京城府尹、澤警務課長、關水消防組長、大野總督府警務課長、高橋、矢野、國米、橋田の各警察署長は臨席して壯んだ午前九時警鐘なる喇叭の響きと共に京畿一號自動車に工藤知事代理工藤部長は乘車しそれに各警察署長の乘れる二號自動車は續いて巡視は開始された數分の巡視が終れば南大門方に於て分列式は開始され二階堂警務部補の號頭指揮に京城消防組、龍山消防組、百六十八人の消防隊は警察に二小隊三小隊の警備自動車は堂々と整列に於て本社前にて大通路を縱貫した九時三十分火災を報ずる警鐘が愉快な梯子乘は演じられて四架の梯子に騰躍は勇ましくその操法に打たれた觀衆は思はず手に汗を握るのである。假令は小隊部の命令に依り活に鬪ひすれば忽然京城日報社の二階三階の窓より黑々と黄煙白煙は立ち昇りスワ出火と驚く間に救助隊は駈せつけ火焔に包まれて逃げ場を失ひたる人々は窓を開け放ちて救ひを求むる如き高所より救助袋に救助樂、救助網、救助梯子に依つて群人の老幼男女は危うきを救はれた、すると警官は高く自動ポンプ隊は間髪を入れず出動して消防から火焔を揚げたる大建築物に向けてホースを一齊に集中した、陽に打ち屋根に迸る水沫は朝日に映じて美しくさしもに猛き火勢は數分の後に消滅してしまつた、午前十時十分頃演習を終りたる消防隊の一同は府廳門前に集合するや工藤京畿道知事より表彰あり吉松府尹、白上警察部長より訓示あり次で工藤知事に代り『京城三十萬人の生命財産を護る諸君の職責は實に偉大なその發露その效驗的な鍛錬と精强さとに俟たねばならない。世界各國を通して日本消防隊の優秀なることは定まるものであれば諸君も今後益々一層の努力を勵まねばならない自分は諸君と共に此の大事業に力を盡す決心である』云々と訓示を終れば解散のラッパは勇ましく響くのであつた、工藤知事より表彰されし十五年以上の勤續者は京城消防組々頭本十太郎、金允洙、鈴栗枝、盧石來京城消防組取伊藤友松の四氏であつた



京城消防隊出初式【上】梯子乘り【下】本社を擬裝せる消防演習

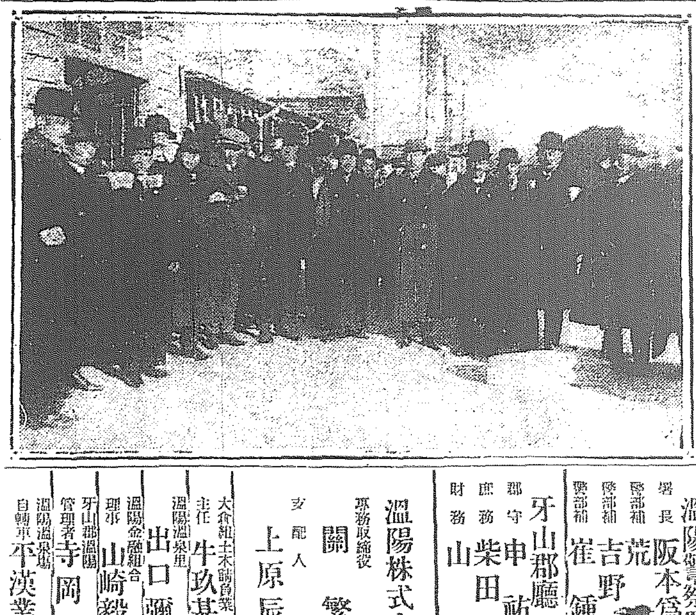
鴨綠江製材會社工場全燒す

三日午前三時安東縣沙河鎭大通り鴨綠江製材株式會社製材工場から失火し同工場全部を烏有に歸せしめ同五時半鎭火した損害約六萬圓の見込であるが死傷はない原因は目下取調べ中である(安東縣特電)

愛婦の新年會

愛國婦人會朝鮮本部にては四日午後一時三十分より京城ホテルに於て新年名刺交換會を開催する由なるが當日は役員及會員の方の合奏等もある筈會員有志出席希望者は其の旨本部に申込まれたしと會費は一圓五十錢なりと

本社南大門通り武藤氏京城支店麥酒部主任藤井武彦氏母堂なみ子は豫て腎臓病にて療養中の處一日死去した享年七十三葬儀は四日午後一時より大和町隣教院に於て盛大に執行された



臺灣視察團出發す【三日午前十時】

けふのメモ(五日)

▲木曜▲癸酉▲先勝▲舊曆十二月八日▲楠正行四條畷に戰死す(正平三年)
▲新年宴會
▲總督新年宴會 午後六時より倭城臺官邸
▲新年歌留多會 午前十時より京城俱樂部
▲日本麥酒會社新年宴 午後六時より京喜久
(六日)▲金曜▲甲戌▲友引▲舊曆十二月九日▲米國前大統領ルーズベルト逝去(大正八年)
▲各學校始業式
▲總督府判事團招待 午後七時より
▲愛國婦人名刺交換茶話會 午前十一時より京城俱樂部

見もの聞きもの

蝶々會三の替(京城座) 蝶々會は慈善興行の日以來大入續きの喜劇蝶々會は毎日好評を博してゐるが三の替りは笑劇『達成女房』二場喜劇『コスモスの家』一場社會劇『色眼鏡』二場喜劇『花より團子』四場等にして悟蝶香蝶、房子の活躍はめざましくその新味ある演技振りは大受けなり尚ほ『花より團子』には房子が充分に三味線の音色を聞せる由

浪花館(四日目) ▲落語(奥大坊)▲笑話手踊(開外)▲少年落語(圓京齋)▲珍藝(社中)▲女流落語手踊(左近)▲軒附、手踊(圓雀)▲狸のかまど(春輔)▲人形會(圓天坊)▲曲藝(萬治)▲所遠い(圓)▲大切舞踊(社中)

東京歌劇協會(慈善) 開演以來非常の好評である▲大正館 五日から新春第二次特別興行實寫『スクリンナップショト』第五『同アラスカ火山』『尾張大八』五巻新派『死の假面』六巻喜劇『キッド』六巻

人參湯

李王世子同妃方子女王殿下に於かれては李王、同妃、李堈公殿下等と御對顔の事あるやも計る可からざればと先頃から朝鮮語の御稽古をお始めになり今は非常に御上達遊ばされ日常の御挨拶位は最早何等御支障ない迄になられたとの御事である▲總督府では年末に當大卒業生を朝鮮官吏に採用する慣例であつたが此數年間は應募者が拂底で弱つて居たものだが今度は急に志望者が殖え東京、京都兩大學で數十名に及んだので試驗を行ふ度は却て詮衡に困り苦心慘澹の末漸く十三名を選り出して各道事務官に振當たさうだこれは近時朝鮮研究者が増した反映で朝鮮の爲め寔に慶ぶべき現象である

朝鮮及滿洲

新年號出づ(菊版百七十頁)
一冊五十錢但し本號に限り定價金一圓 一年分六圓半年三圓

○世界現狀と我殖民政策	諸國院議員
○殖民政策と文化的發展	永田貴族院議員
○經濟政策樹立の基礎	井上總裁
○平和的產業確立	鈴木文治
○平素世界建設の理探	前田文學博士
○年頭感想	有賀光豐
○本年財界豫想	嘉納德之郎
○朝鮮の形勢を語りて	丸山事務官
○朝鮮歴代の主腦者	東邦山人
○朝鮮の鐵道界	弓削鐵道局長
○朝鮮の產業	賀田西鮮殖銀
○積極的治水策を提唱す	齋藤林學士
◎滿洲に於ける產業經濟の諸意見	
○滿洲財界救濟の具體案	石塚專務
○保險界の狀	小西學士
○ハルビン取引所の使命	小泉代議士
○埠頭主要出貨の現在將來	久保田賢一
○滿鐵發價のに不變更	武部治右衛門
○滿洲株界の沿革將來	高橋學人
○大正十一年を迎へて	
○興國の氣象衰ふ	東邦 釋尾春芿
歐米觀察談 歐米より觀察	三木武二
歐米の觀所	榮崎校長
歐米の觀察	安武文學士
米國モルモン宗を訪ふ	久留法學士
○犬の研究	下郡山動物園主任
○犬の飼育	山丸亭之助
○英國の獵犬	へ ×
○朝鮮の犬の傳說	今村鞆
○生殖細胞還元論と新性慾適觀	富士川文學博士
○手術に對する冬國婦人に對應	工藤院長
○京城の名士と娃京と女	逸多梓史
○久振の内地と其印象	朝鮮太郎
○東京より	飛魚漁郎
○紀やん犬	坂本哲郎
○北境を守る警部補の活動	多加木三太郎
○初めて觀た滿洲	北山明天
○漢詩俳句	
○冬は何處え	東邦山人
○正月は龍山に圖書館	山居草
○流汗鍛凍を同胞想愛	小林文學士
○電話交換局を視る	一記者
○京城の活動界	酒居正雄
○不良少女團の巣窟	ホタロの人
○大正十年誌…重要記事大逓短信	蒲短信
風車駄語…京城料亭及藝者評判記	
○小說人の子我が子	小林朧月
○讀者文藝	坪内文學士選

發行所 朝鮮京城府南山町二丁目 朝鮮及滿洲社 振替口座京城一〇二番

溫陽警察署 署長 阪本爲之助 警部補 荒一魁 警部補 吉野伸次 警部補 崔鍾璿

牙山郡廳 郡守 申祐善 庶務 柴田藤太 財務 山本

溫陽株式會社 專務取締役 關繁太郎 支配人 上原辰三郎

大倉組土木請負業 主任 牛玖甚太郎

溫陽溫泉里 出口彌三郎

溫陽金融組合 理事 山崎毅之助

牙山郡溫陽 管理者 寺岡治平

溫陽溫泉場 自轉車 平澤業商店

溫陽溫泉場 二階新築 鐵屋旅館

會席料理 一力 永松友吉

溫陽溫泉場 京南鐵道指定 溫陽館 廣光彦太郎

溫陽溫泉場 石田旅館 石田作太郎

溫陽溫泉場 會席御料理 日の出 黑井イヨ

溫陽溫泉里 公醫 古城俐吉

溫陽溫泉場 內鮮雜貨 吉野商店

溫陽溫泉 內鮮雜貨 小田原商店

溫陽溫泉里 內鮮雜貨 上野商店

溫陽溫泉里 內鮮雜貨 三宅商店

溫陽溫泉場 溫陽せんべい 新聞取扱 阿部商店

謹告

前號掲載の小生に關する記事は全然事實相違に付き御承知相成度此段謹告候也

檢校 小原延明

賀正

源田マーガレット本舗 田畑傑

兼テ病氣ノ處療養相叶ハズ昨三日午前四時死去致シ候間此段知己諸彦ヘ謹告候也
追テ葬儀ハ來ル六日午後一時自宅出棺若草町本願寺別院ニ於テ執行致候

夫 今村嘉八
親戚總代 今村啓之助
和田八千穗
友人總代 同 本田建義

米を國營にせよ 刻下の急務は之だ

前農商務大臣 仲小路廉

我國は四面環海土地狹少にして人口は頗る夥多なれば常に食糧と人口との關係に關し苦心考慮を要すること多きを以て食糧問題は實に重大なる政治問題及社會問題の性質を有する事勿論のことである。然して食糧問題と云ふも我國民の主要食物は云ふ迄もなく

米穀である

から米の需要及其の價格に就ては國民生活に重大なる關係を及ぼす事となるのである。即ち我國に於ては食糧問題と云へば直に米の事と想起し食糧問題即ち米の問題と云ふも可なりである。過去十年間の事實に徴すれば米價は或は非常の騰貴を爲し或は非常なる下落を來し動搖常に極る處なく是に於てか其の生産者たると將た又消費者たるとを問はず國民は常に一般に甚だしき不安を感ぜざるを得なかつたのである。其の結果として消費者に就て云へば國民生活は脅威せられ又生産者側より云へば

事業の基礎

は常に蹉跌せられて居つたのである。故に明治維新以來幾多の物議を招き當路者をして苦心惨憺措く能はざらしめたものにして實に我國に於て何時の時代にも最も重大なる問題の一たりしものである。然るに其の對策は常に姑息彌縫を事とするに過ぎずして未だ曾て之が根本方策を定め依つて以て徹底的に米價調節を行つた事なく大正三四年の豐作の後を承けて米價著しく下落し石當り十二圓を割るに至りたるの時物論大に沸騰し政府も亦調節に

之が救治に

努めたのであるが其の當面の問題を解決するが爲には著しき成績の觀るべきものはなかつたのである。然し乍ら此の機會に於て政府の設置したる米價調節調査會は米問題の根本恒久の策を講じ、其の結果は遂に今日米穀法制定の先驅を爲す事を得たものと謂つて宜しいのである。顧ふに米價の或は騰貴し或は暴落するに伴ひ常に米價問題の喧々たるを見たのであるが終に前議會に於て米穀法の通過を見たのである。今回制定されたる米穀法は常に米價の平衡を實現したるものと言つて宜いのである。予の見る處に依れば前にも言ふが如く

食糧問題は

實に國民生活に重大なる關係を有するを以て農村に於ては農業倉庫を設置し重なる米の集散地には市場倉庫を設けて成るべく米の過不及なきことを期さなければならぬ。今日我國の狀態を以てすれば米は時に出廻り騰貴し時に從つて下落するので常に國民生活は安定を得ず賃銀其他の生活費の關係となるべきものが定まつてゐない有樣である。斯くの如き狀態では到底社會政策を施さんと欲しても其の勞働の方策が立たず又勞働保險其他適切なる時務を計畫しても實行に

甚だ困難を

感ぜざるを得ないのである。然しながら予は此の米の問題に關しては結局之を國營とせずんば到底根本的の解決は不可能の事と信ずるのである。今日の如く國民生活に缺く可からざる米が市場に於て投機者の思惑に依つて左右され居る如きは實に一大不合理の事と斷言するに憚らぬのである。即ち此の投機の目的たることを禁じ並に及び價格問題の解決を爲すには是非共國營を斷行せねばならぬが此の國營にしても其の方法は煙草の如く官營とする方法も亦消費組合又は購買組合等の如き

産業組合に

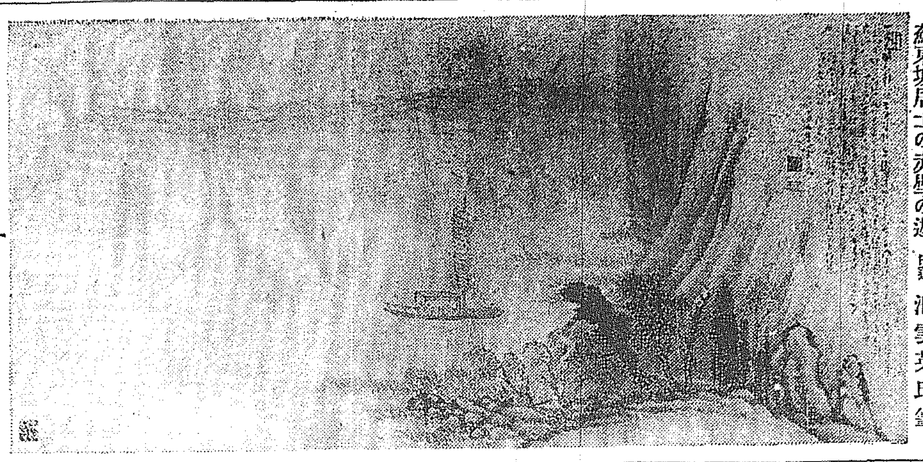
一任する方法もあるが予は純官營たるガバーメントキャングにしないでナショナルゼーション即ち國民の共有物としての態度を以て之を國營とし價格及其並に就き一定の安定を保たしめ國民の生活に成るべく動搖を生ぜしめないやうにしたいものであると思ふのである。(談)

朝鮮開發と宣傳

第一の缺陷は財政の貧弱と民間資金の缺乏にある

釜山商業會議所會頭 香椎源太郎

【釜山】朝鮮産業の開發に就ては、始政以來當局に於ても鋭意熱心に其の施設經營と指導獎勵とに努められ一面又民間に於ける努力活動と相俟つて産業上顯著なる發達をなし農業と云ひ、鑛業と云ひ、水産業と云ひ、將又商工業と云ひ、之を併合當時の狀態に比すれば殆ど隔世の感なき能はざる底の面目一新をなしたことは何人も既に認むる所である。然れども之を半島前途の長き經營よりすれば、既往十有二箇年の事績の如きは僅に開發の第一歩に過ぎない。現に國家の經營に俟つべき鐵道敷設の如き、港灣修築の如き、植林治水の如き、燃料問題の如き其他産業開發の基礎たるべき根本的施設すら、尚未解決に前途に横はりつゝあるものゝ一にして足らない狀態ではないか。然し半島産業上の政策や方針は既に大體に於いて一定し、又之に對する議論も是迄に相當盡されて居る。今や朝鮮の産業は議論の時代を過ぎて正に實行の時代に入りつゝある。半島産業上利害休戚の繫る處は、政策や方針よりは寧ろ實行の運遞に在りと云ふべきである。而して實行の運遞と云ふことは言ふ迄もなく直に資金問題に歸着する。推ふに産業開發の要義は所謂資金問題である。隨つて半島の産業に於ける萬事の解決は主として資金にありと云ふべしだ。曾て聞いた逸話がある。今の東京市長たる後藤男爵が、故兒玉總督の推薦に依り臺灣の民政長官に就任を慫慂せられたとき、男爵は臺灣の經營には是非とも一億圓の資金を投せざる可からずと揚言して、時の桂首相を一驚せしめたと云ふことである。其言は稍誇大の嫌はあるが、要するに施策の要諦は此に存する、想ふに此こに到れば、吾人は我朝鮮統治經營の餘りに小規模なることを遺憾とせざるを得ない。帝國本土と殆ど同一なる面積と遠大なる意義の下に併合せられた帝國大陸發展の第一線たる此朝鮮を統治するに、僅に一億五千萬圓恰も帝國財政の十分一に過ぎざる貧弱の財政を以てし、而も亦中央政府は之を遇すること殆ど内地一府縣と同格位に見做し、僅々一千五百萬や二千萬の補充金すら躊躇出し澁るが如きは、併合の大精神と餘りに矛盾を感ぜざるを得ないのである。試みに臺灣の統治經營と比較し來れば、同島の面積と云ひ、人口と云ひ、將又貿易高と云ひ、我朝鮮に比し多大の劣勢にあり、殊に其生產額の如き非常の相違あるにも拘らず、其財政に至りては、朝鮮とは左まで大した相違もなきのみならず金融機關に於ける融通資金の如きは、寧ろ遙かに朝鮮に超越するが如き統計上の現象を看取するに至りては、吾人は益々我が朝鮮の經營の貧弱さを悲觀せざるを得ない、由來拓殖事業は其一面に於て投資事業である。新領土、殊に天惠の富源に豐なる未開地の開發に投ぜられたる資金は、軈て擴張し還元せられて國本の培養となり、國富の增進となるは必然の歸趨である。決して不生産的のものではない。一體朝鮮は内地の延長だと云ふではないか。然るに之を内地と引離して別個の經濟團と看做すことの觀念が抑々の間違ひではなからうか。半島は帝國國内の一要部面も政治上經濟上重要の一部である。半島産業の開發は即ち帝國々富の增進であり、半島の産業政策といへば取も直さず帝國の産業政策を意味する。結局半島の利害休戚は即ち帝國の利害休戚であらねばならぬ。縱しや行政形式上別個の法域として取扱はれて居るにもせよ、其經濟は共通にして無差別である。左すれば半島産業の開發の如き、獨り半島在住民の双肩にのみ一任すべきではない。正に擧國一致を以て之に當らねばならぬ。又當局の以て之に當るべきが當然である。斯かる理義や關係を沒却して、僅に四五百萬圓の補給に躊躇して、屢に折角の朝鮮豫算の編成替を餘儀なくせしめたり、往々産業開發を遲延せしめたりするが如きは、如何にしても中央政府の無理解を疑はざるを得ない。成程今や帝國の財政も緊縮政策を取るの餘儀なき場合に於て。財政當局者も其財政の按排に苦心しつゝある折柄、殖民地經營に充分の供給をなす能はざるは事情の諒とすべきものなきにしもあらずだが、十有五億の財政から此の偉大の意義ある朝鮮の統治に對し、僅二千萬圓前後の按排をすら不可能とすれば、財政技術の結果と云はんよりは寧ろ無理解の結果と評するも必ずしも吾人の我田引水論でもなからうと信ずる。其れは兎も角として、今や産業開發上多々益々多かるべき緊急施設を前に控へて、年々歳々此の如き狀態を繰返しつゝあつては、産業の前途や誠に憂慮すべきものがある。而も道義の責任たる其一部は我々民間側にあることを自覺せねばならぬ。顧ふに現代の政治は獨り官憲のみに依りて行はるゝと思ふは、正に時代錯誤である。民衆之れに協調し協作して始めて眞の治績を擧ぐることが出來るのである。見よ、以前の外交や國交や將又國防は、凡て文武官憲や條約の形式に依りてのみ行はれつゝあつたではないか。然るに今日は果して如何。外交も國交も國防も悉く國民を背景とし國民の協同動作に俟たねば不可能の時代ではないか。所謂國民外交と云ひ、國民的國防と云ふは此事である。隨つて政治でも外交でも國防でも、其成敗の責任は一部國民に負はねばならぬ譯になる。此の意味に於て、朝鮮統治の得失成敗は其責任の一部亦我々民間側にあると信ずる。卑見ずるに朝鮮在住民は、餘りに朝鮮の開發を當局官憲にのみ一任し過ぎ、餘りに依賴し過ぎるの感がある。即ち餘りに自己責任の自覺がなさ過ぎる嫌に思ふ。要するに朝鮮開發上の缺陷は、前述の如く財政の貧弱に存る。民間資金の缺乏にある。而して此の公私資金の不充實は、其主因何れに在りやと云はゞ、內地朝野の朝鮮に對する無理解にあることを疑はぬ。殊に朝鮮の眞相が充分立法府に瞭明せられず同府が何時迄も無理解の裡に推移しつゝあると云ふことは、朝鮮統治發達上多大の支障であると思ふ。故に我々民間側は宜しく當局官憲の後援となり又中央政府に將又民間實業界に對し、朝鮮の理解の宣傳に努力すべきではあるまいか。否正に民間側、殊に我々實業家の努むべき責任たり義務たることを自覺する。蓋し全道一致の努力に依りて朝鮮の眞價を內地に徹底し、依りて以て內鮮經濟共通の實を全ふし、公私資金の流入を招徠して、産業の開發を促進するの覺悟と努力とがなければならぬ。吾人は此點に於て朝鮮實業界の自覺を促し、爾今有らゆる機會と有らゆる手段とを利用し、之が實行を期するの關係者に依りて、方圖あらんことを希望する次第である。



蘇東坡居士の赤壁の遊 白題 池雲英氏筆

朝鮮株界の回顧 (中)

附 京取市場發達史

△それかと思ふと又反面には株式とはどんなものかさへ辨へぬ者にまで御當て通知が行き、中には臆倍郵便と思つて其儘反古籠に投げ込んだといふ滑稽も演じられたが、擬麼一部を公募して見ると、俺しろ人氣が沸騰して居る際だけに、應募數三十萬圓といふ空前絶後とも云ふべき大盛況を極め、百萬の申込證據金を擁んで僅々三五株の割當てを受けた狀態である。

△愈々總會間際になると、茲に端なくも一つの問題が起つた。それは割當が不公平に因を發する創立無効の訴訟問題で、之れが爲め五月に總會を終りながら二ヶ月を經過するも創業の運びに至らず、原告たる釜山田中某の代理辯護士の鷲岡氏は連日一頁を費して鈴木一派の攻撃を始めたが、結局鮮銀理事の調停となり、訴訟問題も漸く解決して、愈々大正九年八月十四日に開業した。

△多くの希望を以て開業された京取市場も、折柄の財界反動期に際會した爲め、營業細則の窮屈とに禍ひされて、一時プレミアムのみにて六十圓を唱へられた京取の相場が、十二圓五十錢に拂込んで二十五圓五十錢に生れ、踏米漸落を續けて最低十五圓臺を見せ、眼先拂込みを擲込まんとする人氣となり、出來高の如き目論見書には三千株以上を見積られて居るに拘らず日に三四百の出來高に過ぎず、多くの期待を裏切られて居た丈けに其の悲觀は一層甚だしきものであつた。

△茲に至つて仲買人は前途を悲觀して解散するもの續出して、市場は寥々寂寞するに至つたが、窮すれば通ずで、不振の原因は營業細則の窮屈に在るものとして、取引期間を三日間より十五日間に延長方を當局に申請した。十五日間に延長方を爲す意味は、地方注文を吸集する意味にて、實に於いて他に株券又は現金の一時的融通を爲す決濟機關又が無い以上三日間の取引期間では到底地方の注文に應じられなかつた。

△其處で再三事情を具申した結果、當局も已むなく三日間を現期として遠隔地の注文に限り十五日以內に延長することを得といふ認可を與へた。擬麼實行して見ると、當初の一週間丈けは個株及現金の融通に餘裕があるから相當の需給もあるが、受渡期日の接近するに從つて地方の注文に不便を感ずることは前日と同然であり、現金の需要は無數にあるが、株券の需要はない。小相場ながらも仲買は賣方買方双方に別れて盛んに強弱を爭ふた結果は買方の旗色好く、相場はヂリ〳〵上がる一方にて、先安を見込んで賣込んだ賣派は少からず狼狽した。愈十五日目の受渡しが濟んで見ると信託組合の株券は一枚も貸出しては無いが、現金は制限以上貸出されて居たことが發覺した。茲に於てか賣方の激昂甚だしく、信託組合は制限以上の貸出を爲して買方に味方するは不都合だと大田氏に喰つて掛かり茲に第二の紛擾が持ち上つた。

△此の事件は益々紛糾して買方の態度餘りに強硬なる處より過激派と稱せらるゝに至り賣方を呼ぶに穩和派を以てした時恰も委員長たる田中氏は賣方に立つて居り、他の仲買に比し大田氏との私交關係から田中氏は私交を利用して委員長の職權を濫用したといふ非難を受くるに至り、遂に仲買の總辭職を引出すと共に委員長を辭した。

△其後田中氏の總辭職けは兩役の手に保留され再三の勸告を受けたる結果總辭職は撤回するに至つたが委員長は前途困難とした之に代つて川崎氏委員長に推され副委員に井口氏が就任することゝなつたが、當初川崎氏の委員長に就任するや仲買人としての理想高遠に過ぎ、從つて仲買人に副はざる態度と見られ、仲買人から諒せず、徹服せず、漸次實力を認めらるゝに至つた。

△其後更に一策を案じて十年一月より十五日間を二期に分ちて今迄の中取引を買增取引といふ名の下に郵送繁盛を可能ならしめた結果は案外の好結果を得て市場は逐日繁昌するに至り川崎氏の努力と賣買漸く目立ち十年の初

華府會議の人氣男

英國の老政治家バルフオーア
日本代表加藤男
大雄辯家たる佛國のブリアン

ワシントン會議に參集してゐる世界各國の政治家中最も米國人の人氣に投じてゐるのは何と云つても英國のバルフオーアと日本の加藤男と佛蘭西のブリアンの三人である。ワシントン會議召集の眞の目的が米國の地位を世界的に確保しやうとしたにあるは云ふまでもないが、其米國に取つて大西洋の脅威と見做されてゐる英國のバルフオーアや、太平洋の脅威と見做されてゐる日本の加藤男が、各種の復雜してた事由の下にヤンキーの人氣を博してゐることはあながち奇蹟でも何でもない。コンテネンタル、ホールの會議場で中央に座を占めてゐる國務卿ヒューズ氏の隣席に巨軀瞞跚の如何にも英國の貴族政治家らしいバルフオーアの姿は野次氣分の充實した米國人には珍重がられるのも決して偶然ではなからう。彼は兩腕に双手の握り締を乘せて極めて流暢に併し非常に惱ましな態度で、輕い諧謔交りの演說をやる。貴婦人席に居た前大統領ウイルソン夫人や、それを中心としたワシントン社交界の婦人達が、私かに囁き合つては此の落ち付いた而も親しみ深さうな大英國の老政治家を讚賞してゐたが、大體向ふに押し掛けてゐる男女の群衆が彼の一句一句に無限の拍手を與へるのも當然でなければならぬ。

日本といふ一小島國が今回の會議の中心であることは米國人に多大の興味を覺えしめた。蛇龍白鬚を呼んだといふ太平洋の彼岸に、可愛らしい、されど何となく侮しがたい强味のある日本が朔然と頭を擡げたに就ては米國民心に極めて複雜な思想を投げ込んだのであつた。米國民の一部には曾て日本が强くなる前に早くも提携を申込んで成功した英國のやうに、米國も亦、問題とのデッドロックに到らざる前に日本と相提携へるの有利なるを知悉して來たものが多い。否この思想の方が民心の底を不斷に流れてゐるやうである。悉うした氣分の中にある米國へ日本の代表として加藤全權が來た。加藤の風貌性格は日本を典型的に代表したものであつた。米國人が加藤に接した時、目のあたりに日本そのものを見るやうに思つた違ひない。今の日本の國民は軍閥の跋扈から脫れて自由な平和の民に進みつゝあるのである。加藤海相の言辭思想はこの日本國民の心の底を具象化したやうなものがあつた。米國人が彼を喜び彼を賞賛し、殊に彼の明晰なる態度に恍惚と醉ふたのも亦當然のことゝ云ふを得るであらう。ワシントン市街は聯合旗で飾り立てられてゐるがその國旗ある所には必ず日英兩國の國旗も珍重がられてゐる。ワシントン會議が軍備縮少や、極東問題でどのやうに動いて行つても、來るべき世界は日米英三國の旗によつて平和を保證されるといふ安指は誰の胸にも起つて居る所である。

その間に佛蘭西の首相ブリアンが思想な人氣を保ち、米國の政界の一部は彼に『ライオン、リーダー』の敬稱を與へ、血に燃ゆるが如き彼の大雄辯に心醉してゐる形である。世界の平和を渴仰する民が過去の世界大戰を憎むの情、强烈なものがある。從つて可憐なるフランスを庇護しようとする友情が彼の將來を保證しようとする友情が强い勢力となつてブリアンの周囲を包んでゐるやうである、彼が壇上に立つて『歐洲大陸は實にわがフランス陸軍の血と命とに依つて擁護されねばならぬ』と絶叫するや、議堂は果しなき感激に醉ひ、フランスが五ケ年の戰鬪に依りて拂ひたる貴き血と生命とを愛する心が一體となつて平和の天地に躍いたやうであつた。ブリアンの叫びは悲壯であつた。何等の裝飾もなく熱烈にフランスの將來を憂慮する愛國的熱誠は聽衆を魅了し頑强なる意志は却て佛國の將來を列國に保證せしめずには措かなかつた。戰爭に疲れ果てた佛蘭西は斯うしてブリアンの雄辯に依つて列國に愛されるやうになつた。英國や日本が米國にて受けた人氣とは自ら異る人氣を受けてゐるブリアンは確にワシントン會議に於ける第一人者である。(在華府テーシー生)

時能の犬

畑時能は通稱を六郎左衛門と云ふた武藏の人で新田義貞の臣であつた。勇猛で膂力人に越え且謀略にも長じて居つた。義貞が北國にて戰死した後は時能は殘兵僅に二十七人で越前の城を守つて居つたが城が堅固で敵が攻擊したが容易に陷落させる事が出來ぬ。此の畑時能には鎗の快舞と云ふ僧と悪太郎と云ふ僕、があつて自分と常に三人で能く謀り能く戰ふて敵を破つて居つたので畑の勇名は敵の陣營に嘖々として傳へられたは此外に畑は『犬獅子』と云ふ一匹の猛犬を飼つて居つたが此犬が畑の謀ふ時には何時も能く働いたのである。左に此犬獅子に就て太平記の一節を紹介する。

又犬獅子と名を付けたる不思議の犬一匹ありけり此三人の者ども闇にだになれば敵の城に忍び入る先づ件の犬を先立てゝ城の用心の樣を伺ふに敵の用心嚴しくして隙を伺ひ難き時は此犬一吠ほえて走り出で敵の寢入り夜廻りも止む時は走り出で主に向つて尾を振りて告げる時畑三人共に此犬を案內者にて塀を乘り越え城の中へ打入りて叫き喚ひて縱横無礙に切りて廻りける間數千の敵軍驚き騷ぎて城を落されぬはなかりけりされば此犬一城中に忍び入りて機嫌を計りける三十七個の所に城を搆へ分ち逆木を引き塀を塗りたる向城とも毎夜一つ二つ打ち落され物具を捨て馬を失ひ塀をかく事多ければ敵の強きをば顧みず味方に笑はれんことを恥ぢて密かに兵糧を入れ忍び〳〵酒肴を送りて然るべくは我城を夜討になせぞ畑を語はめものぞなかりける云々

屠蘇危言

しほたに

此頃學者とか識者とか政治家とか云ふ連中は太平洋會議に於ける軍備制限問題協定後節減さるべき金の使途に就てボツ〳〵論じ出して來たやうであるが、何れを見ても感心するやうな議論はなく、その殆ど悉くは文化を進める爲めに社會施設に用ゐる等と目下流行の題目のみを捕へて、現在の日本にはもつと重大な問題のある事を忘れて居るんではないかと思はれるやうな議論ばかりして居る。尤も我國現在の所謂學者識者なる者は歐米の人々の說を鵜呑みにしては吐き出す機械で、いはゞ蓄音機のやうなものであり政治家は又政治家で私利私慾の外何事も考へず政治の根本義たる最大多數の最大幸福といふ事を念頭に置いて居る者は甚だ稀にしたくも無い有樣であるから晴れ〴〵の氣を呼びさうな議論を吐くに不思議はないが、併し是では餘りに心細い。

文化事業！誠に結構であるが、食足りて禮節を知るで、現在の日本の國民には先づ如何なる事があつても喰ふに心配がないといふやうにしてやる事の方が肝要ではあるまいか。又社會施設も必要には違ひないが、危險思想は喰へない時に多く發芽するんであるから、此根本を打捨て置いて百の社會施設をしても其効果の甚だ怪しい事は智者を待つて始めて知るべきの事柄ではない。それ故現在の日本が先づ第一に解決すべき問題は、若くても遲くても食糧問題であらねばならぬ。私は此問題解決の爲に今度節減さるべき金を使つて欲しい。三四年前富山縣下の女房連の行動が導火線となつて、全國各地に米騷動の起つた時、今にも國中の人間が餓死でもするやうに、減食しろ、玄米を喰べ、麥食しろ、粟を食へ、酒造を禁止しろ、外米を輸入しろ等と騷いだのは一體誰であつたらうか。そして此食糧問題に就ては其後の豐作によつて一時靜まつては居るもの丶一寸でも凶作の際を開けば直ぐ爆發すべき危險性は依然除かれて居ないにも拘らず、今では之をけろりと忘れて了つて、文化事業、社會事業を強調しつゝあるのは一體誰であらうか。斯んな人々の議論はいゝ加減に聞いて置かねばならぬ。吾々は此食糧問題の解決に急がねばならぬ。然るに此解決の方法も當局學者識者が其當時周章付で麗々しく發表した所謂の減食說や代用米說や外米輸入說やでは一時的のものであるから到底駄目であつて、もつと根本的のものでなければならぬ。然らば其根本的解決方法とは何か。此問題に對しては私は殖民移住荒蕪地開墾之であると答へ度い。

アメリカのやうに廣大な土地を有つて居るではなく、英國の如く殖民地を有つて居るでもなく、何時でも豐富に食糧を供給し得る殖民地を有つて居るでもなく、凶作がある毎に外國から其食糧を買入れて惱まなければならぬやうな現狀にある我國にあつては、此食糧問題を解決するにはどうしても殖民移住、荒蕪地開墾に依らねばならぬ。そして是を徹底的にやるには私の案によると一寸纏まつた金が要る。それで私は文化事業や社會施設は第二として此食糧問題解決の爲に今度節減さるべき金を使つて欲しいのである。その金の使ひ方とか移住開墾すべき方面とかの具體案は何れ私の主張が容れられさうになつて來たらゆつくり申上げる事にする。

全州八達町 御料理 二葉 電話二六番

全州高砂町 油ト肥料 湖南製油所

全北金堤 大久保到

全北金堤驛前 米穀商 井上又七 米穀商 今井勝三 米穀商 山口米藏

全北金堤 金堤繩叺組合長 金[illegible]斗

全北井邑 殖產銀行支店長 中林宇治吉

全北金堤 石川農場株式會社

全州憲兵分隊長 上杉貞一

金物 陶器 雜貨部 卸商 全州本町二丁目 笠井治平商店

綿糸布商 全州南本町一丁目 樋渡宗俊

朝鮮全州大正町一丁目 御菓子司 壽保羅堂事 有松角商店 電話百〇六番 電略 又ハカカ

全州大正町二丁目 會席御料理 博多屋 電話二五番

全州大正町一丁目 和洋酒食料品 中柴支店 電話六三番

全州大正町一丁目 古宮時計店 電話一四〇番

全州本町 和洋金物 大木商店 電話二九番

朝鮮全州本町 材木商 宮崎商會 電話一三四番 電信略號(ミ)又ハ(ミヤ)

全州本町二丁目 全北自働車商會 長途電話一四九番 全州南原間定期營業 全州裡里間

全州大正町一丁目 銘酒 忠勇一手 加瀬商會 電話一〇五番

朝錦釀造元 參禮酒造場

同 支店 全州大正町 電話二九番

全州大正町三丁目 雜貨商 株式 鮫嶋商店

謝近火御見舞 平壤旭町 坪内理髮店

謝近火御見舞 平壤旭町 赤かべ

謝近火御見舞 平壤旭町 丁子屋洋服店

謝近火御見舞 平壤大和町 奥田洋行

謝近火御見舞 平壤旭町 工電社 恒成錄郎

謝近火御見舞 平壤大和町 菊名千壽堂

謝近火御見舞 平壤大和町 漢城銀行大和町出張所

謝近火御見舞 平壤大和町 廣島屋

謝近火御見舞 平壤大和町 柔田商店

謝近火御見舞 平壤大和町 丸天時計店

謝近火御見舞 平壤旭町 朝日釀造株式會社

成し遂げたき事は多々ある

能否は歳入額の如何に依る

平南道知事　篠田治策

【平壤】大正十一年度の事業に就ては目下大々査定中であつて、一月下旬でなければ確然たる事は判らぬが着手したい事は澤山にある。

先づ第一に考慮しなければならぬのが醫學校である。平壤の醫工業的發展は日に顯著となり、多年の懸案たる甲種程度の醫學校の設置は目睫の急務となつて居る。然し之が設置に就て本府とも屢々折衝して見たが經費の補助も仰げないので、總て地方費から支出しなければならぬ事になつたが、本道の財政たるや甚だ貧弱であつて、新税を設けない限り十一年度の歳入は前年度よりも減少する模樣であるから、道當局として醫學校設置は非常に困難な事である。

醫學校を設置するには建設費として約六萬圓と經常費の四萬圓を要する然して此内民間からの寄附でも多額にあれば未だしも、平壤では過去の事實に照して甚だ望み難い事であるから約十萬圓悉くを地方費から支出せねばならず、又一方には民間からの要望たる商品陳列所も建設したいと思ひ頗る多事である。陳列所はバラツク建でも宜いと言ふのだが、永久的のものであれば外觀上からも亦火災豫防等の上からも煉瓦建にしたく、其上市民の希望たる南門町の三角地にでも建てるとすれば地價が高いので益困難である。但し十一年度は歳入の減少を見る代りに地方費から平南及び鎭南浦兩府への補助が輕減する見込だから、其方から多少の餘裕を見られるであらうと思ふ。

我平安南道は全鮮中畑のみ多く水田の最も尠い所なので、南鮮地方と比較にならぬのみか、黃海、平北に較べても尚地租税が尠く試みに日本全國の租税負擔表を見ても平安南道が最も少いのであつて、方法に依つては未だ新税又は增税の餘裕は相當にあると信ずる。

火災に遭つた安州農學校の存廢に就ては此際教育機關は擴張する共減じたくない時であるが、地方費の關係上再築を躊躇せぬでもなかつたが最近安州地方の寄附申込も相當額に達し一萬圓の火災保險金もあるので、目下再築存續せしむべく交渉中である。

土木の方でも平壤の市區改正に伴ふ國庫補助金を得たから新年度から着手する筈へ、又道路及び橋梁に就ても多數新設せねばならぬ事業があるに拘らず。一方十年前位に作つた道路橋梁で最早修繕し架け替へねばならぬ物も可なり出來て居るので双方力を致さねばならぬ。更に平壤から北鮮咸興に通ずる二等道路は殆ど交通なく焦眉の急務でもないが、道評議會で議員一致建議されたので十一年度から假令小部分宛でも改修に着手しなければならぬ。

平壤府の行政區域擴張は昨秋一度本府に認可を申請したが、總督府の反對があつて、本府は時期尚早として認可を返却して來た。平壤府の市街地價は府に編入の上改定したいと思つて居たが、新規の發展に日を追ふて進むので此儘にして置いては百年の計を誤るものだと思ふて最近地主側からも要望的態度に出て可及的拘束のない所で道路等の設定をしたいと言つて居るから解決も遠くはあるまいと信ずる。

從來道で管理して居た平壤及び鎭南浦の兩水道は十一年度から兩府に移管される事になつたが、平壤府では百何十萬圓を要した事業で、年々約二萬圓の利益ある水道を無償で讓渡するので、今から二萬圓の使途を計畫して居る樣である。鎭南浦では昨年から二十五萬圓の國庫補助を得て府營で新水道工事を起して居るが、更に現水道が移管されるに就て水の涸らぬ水道の保管費を氣遣つて有識者連が心配の種になつて居るが、予は呉れるものは貰つて置き費用が掛るなら事も貰かず放任して置いて、新水道に頼り現水道に若しも水が溜つたら其時は使用すれば宜からうと思ふ。

本道では疾くから施政宣傳の爲に地方改良班を作つて道内隈々まで巡回させて居るが、之が鮮に於ける民衆宣傳の嚆矢であり非常に良好な成績を擧げて居るから新年度も益々奬勵して此の事業を續けたいと思つて居る。

十年度で新しく道參與會を目論んで安州、德川等で行つたが、道評議會の開催で非常な效果を得た。之を毎年續ける事の可否は目下研究中だが新年度も他地方で開催するか又は一年置き位に擧行するか未定である。要するにしたい事業は多々あるが能否は全く歳入に左右され豫算が決定した上でなければ確定的の計畫は樹て難い。

交通機關の整頓が急務

各方面共に發展の餘裕綽々

江原道知事　申錫麟

余は本道に赴任前は、江原道とは唯山岳のみの最も貧弱にして、將來に於ても著しき發展の見込なき道と思惟したるも、着任後親しく實際の江原道を見、大體の調査研究を重ねたるに、事實は豫想に反して他道に比し特に遜色なき富源地たるのみならず、施設方法其宜しきを得るに於ては各方面に渉り充分發展の餘地ありて敢て爾他を凌駕すること至難ならざるを思ふ。今道勢の大要を語り並せて其富源の一端を紹介するときは

一、産米の增加。耕地面積の擴張及之に伴ふ米產額の增加にして現在畓の作付反別七萬八千餘町步年產額六十九萬五千餘石にして產米額は本道農產物中の大宗たるも現在は未だ幼稚なるも之が改良は農家經濟の發達を圖る上に於て最捷徑なるを認め將來優良品種の普及、畑作改良耕牧秋耕施肥の增加並に調製法改良等に努め收穫高の增加を計ると共に水利灌漑の施設に努力するに於ては畓と爲し得べきもの約二萬町步の見込にして近き將來には十萬町步の作付反別に擴張し得べく從て百五十萬石の產米增加は內地の收穫量より打算し至難ならざるを思ふ

二、蠶絲の奬勵。次に本道は風土能く桑樹の栽培に適し現在飼育戶數四萬五千戶收繭一萬二千五百石に達せり將來の施設奬勵如何に依りては內地長野縣下に於けるか如く全鮮中冠たる蠶業地たるべく現在之が奬勵機關として原蠶種製造所、蠶業取締所、蠶業組合等の改良取締及桑田の增殖と相俟て大に其の普及を圖りつゝあり今後更に積極的奬勵を爲すに於ては收繭年產額十萬石に達するを得べし

三、牛の改良增殖。畜牛は現在其の頭數十六萬餘頭にして農家百戶に對し八十二頭に當れり然して本道は其の山野到る所牧草發生し飼料豐富なるに依り古來より產牛地として名あり農家の飼育能力は二戶に對する約三頭の割合とし將來畜產同業組合又は牛契等の組織に依り之が改善增殖を計るに於ては優に三十萬頭の畜牛を產するに至り產牛地として前途益々有望なり

四、木材の豐富。本道山林の面積は百九十萬町步にして內成林地の廣きこと咸鏡南北道及平安北道に亞ぐ然して古來本道は人口稀薄なりしを以て住民の自家用材の需用比較的少かりしと交通不便なりし爲盜伐の弊甚しからず火田跡地等を除きては山骨の露出するに至りたるもの未だ多からず又天然雜樹の生育極めて良好なるものあり殊に中央山脈中には鬱蒼たる天然林の點在するを見る故に今後林業奬勵其の宜しきを得は是等の地方をして良美なる森林と化せしめ直に良材を市場に供給することを得るのみならず交通機關の發達と共に此の無盡藏とも云ふべき良木材を鮮內各地は勿論內地方面へも移出することを得るに至るべきを以て林業は本道富源中最も大を爲せるものと云ふべし

五、漁業の奬勵。本道の海岸線は二百五十七海里に渉り沙濱險岸相連り海水極めて深く且つ鬱蒼たる森林多きを以て好箇漁場を形成せるもの尠からず殊に暖寒二脈の海流は兩性の魚族を齎らしむると共に水產物の分布を濃密ならしむるを以て漁利無限なるも從來漁業者は概ね資力なき爲め漁船漁具粗雜漁法亦拙劣なる爲地先漁業を事とし殊に沖合漁業に疎く從て波濤高きを以て沿岸一帶の地勢急峻にして交通の便を缺き海上の運輸亦全からざる爲漁獲物の運搬に便ならざる等に依り漁業の大寶庫を擁しながら漁獲物年產僅かに二百萬圓に過ぎず今後漁業開發の餘地甚大なりと謂はざるべからず而して現在に於ては漁業奬勵機關として漁業實習場を設け漁業者を養成し來たるも今回之を水產試驗場と改め沖合漁業の發達に主力を致すと共に漁撈の試驗に努め其の他漁業組合漁業製造等の設けに努めつゝあれば將來は年產額一千萬圓の漁獲高を得ることも遠くにあらざると思料す

以上產業の大要を語り以て本道の如何に資源に富み將來のあるべきかを述べたる次第にて斯く各方面に富を擁しながら今日尚發展の途上にあるは要するに地理的原因の然らしむる所にして交通機關の不整備に基くもの多く交通機關の不整備が如何に產業の發達を阻害せられたることは言を俟たざる所とす。仍て先以て之が改善を講ずるの急且切なることは足を本道に踏みたるもの、同感ならざるはなし。現在に於ける本道の道路網は一等道路三十里、二等道路三百二十三里、三等道路二百二十九里合計五百八十三里にして內改修既成道路は一等道路十七里、二等道路二百二十七里、三等道路百二里合計三百五十六里となり總延長に對する約六割の改修を終り、管內二十一郡の內六郡を除き自動車にて交通可能の域に達し道廳所在地たる春川より管內中部を一週するを得べきも、未だ完全と申されず。故に未成道路及不完全なる線路に對しては近く改修に着手し今後五ヶ年間に於いて管內樞要道路の完成を期すべく計畫中にあり。又一方鐵原金剛山間の金剛山電氣鐵道は目下工事進捗中にあり。其京城春川間電氣鐵道も又近く工事に着手する運びに至るべし。之が開通の曉は更に本道の產業上一大革命を來するに至るべきを思ひ、之が整備は一日も遲かるべからざることを痛感して止まざるなり。尚終りに本道は各地到る處に山水の美に富み、就中金剛山は東洋に於ける名勝地たるは既に一般に周知の事なり。此の世界的名勝地を廣く一般世人に紹介すべく觀光に便すべく交通の整頓各種遊覽客に對する設備を整ふるは、單に本道の如何に絕勝の地たるかを知らしむるに止まらず、地方開發上將來は朝鮮開發上最も稗益あるべきこと、信ずる所にして之は實に本道特有たる誇りと謂ふことを得べし。

人の和を以て自然を制せよ

官府の力に頼るは時代後れ

忠北道知事　米田甚太郎

【清州】鐵鎚一響を報じ、起ちて東天を拜すれば、瑞氣山河に滿ち、旭光海波を照らして興國興運の瑞氣は瀰漫として都鄙に洽し。吾人は茲に八十萬道民諸君と共に王民の新春を迎へ、一大白を擧げて恭しく我が皇室の御繁榮と國運の隆昌を祝福するを欣ぶと同時に、此の佳辰に際して本道の將來を察し、道民の融和を增進するの計を新にするを愉快とする。

惟ふに治世の要道は人心の和合に在りと云ふを得べく、荀くも何種の事業を問はず人和を得ざれば成就すること能はざるは明白である。故に畏くも明治聖帝の維新の際宣布あらせられたる五箇條の御誓文の中にも『上下心を一にして云々』とあるを拜しても、其然る所以を知り得るのである。即ち我が國民は此の大御心を奉體し、能く之を諒解して、小にしては一家一鄕の和合を保ち、大にしては國民擧つて一心同體となりて國家の經綸を實施し率ゐたるが故に國家の基礎を安泰ならしめ、內は明治大正の聖代を建設し、外は蕞爾たる日東帝國をして世界列強の班に伍し國際場裡に重きをなすに至らしめたのである。實にも人心の融和統合の如何は家國盛衰の岐るゝ所であつて一家の內に於ても父子夫婦兄弟の融和を見ざれば家政の繁榮を期することは出來ないと同樣に、國民の意思が一致しなければ到底健全なる國家社會を形成することを得ないのである。熟々本道の狀勢を察するに擴域は狹少であり、地勢は四面山を以て閉塞せられ寸尺の海岸線を有せず、山地多く從つて交通の利便完からずして所謂地の利を缺いて居るため、住民の產業は誠に幼稚貧弱であつて財政經濟上常に資艱の嘆を免れないのである。元より當局者は準備の許す限り產業の開發其他各般の施設に努力しつゝあるけれども、民力の增進民智の啓發に依りて施設經營の依頼するのみで此の目的を達成することは至難である。のみならず今日の世態に照し之れを官府の力にばかり期待するのは少しく時代後れである。即ち官府は民衆の進む所世態の趨く方向を察して適當の方針施設を誘導援助を加へ、民衆亦能く官府の指導誘掖を諒得し之に順應して福利の追求に當るにあらざれば健全なる發達は望み難いのである。幸ひに本道は官民の間柄と云はず鮮內民間の間を問はず頗る能く調和を保たれて其間些の阻隔とか蟠りのないのは實に悅ばしい氣風であつて誠に心強く思ふ所である吾人は更に此の好風潮を基調として之を助長大成し、渾然として融和統合せしめ以て道治各般の施設の徹底と經濟の成功を期し、道民福利增進の關鍵たらしめむと欲するのである勿論道治上施設經營すべき事業は多岐多端であつて、夫れ〳〵施政の綱領に則り時代の進步に適應して漸次發展せしめなければならないのであるが、それには是非とも人心の融和を根本要件とするのである。故に官府の內部は云ふ迄もなく官府と民衆との間又民衆相互の間の融和が一致同心となりて此の目的に向つて邁進するの意氣を振作するの必要なるを思ひ、且之か實現を期待して止まないのである。要して吾人の所謂「一地の利は人の和に如かず」の言の如く、人和を以て能く自然を制し民衆の福利を增進するは實に快心のことではないか。斯かる意義に於て本道の前途は洋々たるものである。

男爵　朴箕陽氏試筆

向後の十年は投資時代

既往十箇年は基礎確立時代

慶北道知事　藤川利三郎

【大邱】烏兎匆々大正十年を送り、玆に十一年の新しき春を迎へたのである。惟ふに大正十年は內外多事、有史以來の顯著なる事項に乏しくない。之を內にしては皇儲殿下の歐洲各國御訪問より、國政御攝政の詔勅を發布せられ、之を外にしては平和會議の結果組織せられたる國際聯盟の開設より、社會の耳目を聳動せしめた軍備縮小並に極東問題の解決を期する華府會議も開催せられた。其他大正聖代の因襲たる陋習の遺憾あり、國事益々多端を加へたが、朝鮮に於ても新總督着任以來第一着手として企圖せられた地方制度の改正實施、臨時產業調査會の開催等特筆すべき事項も亦勘なくない。古來十年は一昔と稱し、各般の事項一轉期を劃するのである。試みに本道各般の情勢を十年以前に對比し此一轉期間に於ける社會進展の狀況を窺ふに其の發展顯著なるものがある。當時は併合間際で事業創始の際であつて統計の如き充分正確を期し難いが、其の大要を摘記し當年を追想するも亦興あることゝある。

事項區分	現在	大正元年
米產額	三六三千石	三三三千石
同改良種作反別	一五〇、八〇〇町	五七町
同地移出額	四九千石	：
麥產額	一、八〇二千石	一、〇四三千石
雜穀同	三六四	一〇四
陸地棉產額	一、四四〇萬斤	八四萬斤
繭產額	三、四四八石	六三三石
畜牛額	一八〇千頭	一五〇千頭
人工造林反別	三、七九町	六〇町
水產漁獲高	四、四八千圓	二七〇千圓
鑛區數	一〇〇ケ所	四四個所
會社數	六三	：
工場數	八二	一〇
工場資本額	九、八九〇千圓	五八〇千圓
同生產額	六、八七〇千圓	五九〇千圓
鑛物產額	三、一三〇千圓	八五〇千圓
製紙產額	七〇〇千圓	一一六千圓
道路改修延長（二三等）	三六〇里	四〇里
銀行本支店	一四	六
同預金	六、五三〇千圓	四〇八千圓
同貸付金	三、三三〇千圓	一、三六〇千圓
金融組合數	三九	一〇
同預金	一、二四〇千圓	六九千圓
同貸出額	三、四〇八千圓	一四〇千圓
國稅額	三、四六〇千圓	一、二七〇千圓
地方費	一、六三〇千圓	三三〇千圓
府費	三五七千圓	二〇三千圓
面費	一、七〇〇千圓	四三〇千圓

事項區分	現在	大正元年
學校組合費	六六千圓	二千圓
學校費	一、一六八千圓	三三千圓
內地人學校數	一〇五	一〇
公立學校數 朝鮮人同	一〇四	四三
地方區經費	二、〇六五千圓	四九六千圓

抑も本道は交通至便、氣候溫和、土地豐饒なるを以て古來人口最も稠密にして而も住民は理智に敏く、包容せる地方各種の天惠を利用するに於て遺憾なく、農林水產鑛工等各其の從事する方面に活躍して之が改良發達に努め其進運隆々として他を凌ぐの狀態である。以上記述する所は各方面に亘り主要事項を列記したに過ぎないが、爾餘萬般の事項も總て此の步調を一にするは勿論であつて其發達の急激なるに驚かざるを得ない。而も其發達は出發點を去ること遠からずして、各種農產の改良增殖より荒蕪地林野の造林、水產漁利の開發、各種工業等の助長、鑛區の開掘、其他各般產業開發の急須なるは勿論、土木、教育、社會事業等有ゆる施設一として急要ならざるなく、前途甚だ遼遠であると云はなければならぬ。而して是等の施設には莫大の經費を要し到底官營の能くする所でない。官營の施設は唯可燃物に點火材料を投ずるに外ならないから、地方當業者は克く其の趣旨を諒得し、益々自發を以て各種事業の發達伸張を期せなければならぬ。由來朝鮮の地は財源に乏しく、其の政費に於ても年々內地より多數の補助を仰いで漸く之を支へて居るのである。而して朝鮮に於ける國稅一人當負擔額は二圓二十九錢に當り、之を內地の八圓八十八錢餘に對比すれば[illegible]に過ぎない。[illegible]の困難を感ぜしむとしてゐる。財源涸渇の彼を求け之が濟襄の過渡期に在りと言はなければならぬ。既往十年を以て朝鮮統治の基礎確立時代とし、向後の十年を各種產業に要する投資時代とし、官民各方面より極力產業投資經濟調護に努めむことを切望する。

大樂天地

黃海道知事　朴重陽

世人黃海道を知らざるもの多きを遺憾とす。黃海道は近き將來富力に於て全鮮の王たる可く、奇勝地の多きことは全鮮の冠たる可し。水田十四萬町步、畑四十二萬町步、內灌漑施設を爲せば地目變換を爲し得る水田增加面積二十萬町步に至る可く、又開墾を爲して得べき水田增加[illegible]萬町步に達し、之に依り少くも[illegible]萬町步に至り、合計[illegible]萬石の年產額を得可し。產米六百萬石は全鮮產額の三分の一強なりずや。其他金、鐵、石炭、大理石、水產物あり、且つ朝鮮に乏しき溫泉八九ヶ所何れも溫度高く九月山、長壽山、首陽山の如き歷史を語る名山あり。每夏二三百人の歐米人集りて避暑遊樂を爲す。他に比類を見る能はざる九味浦の海水浴場あり、朝鮮統治の大目的を達し進展を爲す曉には、黃海道は朝鮮に於ける一大樂天地と爲る可く、存分に黃海道を料理し得ば五年乃至十ヶ年の間には夢の如き理想を實現するを得可しと信ずるものなり。人の爲不爲に依り決するものなり。目出度く大正十一年を迎へ我黃海道を紹介す。

演藝案內

松竹キネマ株式會社朝鮮總特約店　櫻井町　電話八七三　**大正館**

▲當る五日より新春第二次特別大興行
▲實寫『スクリンナップショット』第五
▲同『アラスカ山の實況』長尺
松竹キネマ歌舞伎部作品
▲舊劇『尾張大八』全五卷　金城の名物男大八が實父の仇討したる痛快なる孝子美談
松竹キネマ新派劇部作品
▲新派悲劇『死の假面』全六卷　月岡一樹、鈴木歌子主演　本邦空前の海洋大活劇にして特に一千五百圓の保險を附して出張撮影せし的の傑作
▲米國チヤップリン氏一代の世界的大映畫『キッド』全六卷　「キッド」は何故に空前の名畫なりや
入場料一等八十錢、二等四十錢　本興行中從來發行の招待券は斷り

株式會社日活特約　電話三一一番　**京龍館**
▲新春特別大興行（十一日より）
マルナヤ河の絕景
トライアングル、キーストン會社　マツクセンネツト映畫　浮浪者ジョ
ニコ〳〵喜劇
日活向島派　新派悲劇　東藝者　全五卷
米國ユニバーサル社　連續大活劇『最後の勝利』
日活京都派　大久保彥左衛門　全七卷

京城本町　**喜樂館**
日活京都派　松之助　深川庄八　全五卷
陸軍のパール　四卷の內
まごゝろ　全六卷

永樂町一丁目商品陳列所前　電話二〇一四番　**中央館**
さらわれ愛兒　全四卷
淚の結婚　全四卷

本町五丁目　**浪花座**　穆文慶一行

國活ユ社洋劇專門　電話二六三七　**黃金館**
大連續　無敵エルモ　第三篇第四篇

明治町　電話二六〇　**浪花館**　橘ノ圓來演　東京各派落語大一座

電話七八五番　**壽館**　京城オペラハウス出演　東京歌劇協會一行

電話五七八番　**京城劇場**　喜劇蝶々會

正月五日晝間より引續特別映畫提供　哀話まだ見ぬ親　最終篇陸軍のパール　水戶黃門巡遊記

本町　**喜樂館**　五日より公開　現る！世界的名優　モンロー　サリスブリー氏大力演　巖頭の悔

活劇　沙漠にもある花　六卷
連續無敵エルモ　四卷
ユ社洋劇專門　黃金館　兄弟興行部

空前の大映畫　當る五日封切　一週間限り日延べなし
チヤーレー　チヤップリン氏　畢生の超特作大映畫　淚の喜劇
キッド　全六卷
Charles Chaplin IN THE KID
「キッド」は何故に空前の名畫なりや
チヤップリン氏が此映畫製作の爲五歳の少年名優ジヤツククーガン君共に全一年二ケ月の大努力を費せしは普く世の知る所。而も其苦心は遂に空しからず。米國諸洲にて十二週間の封切の際は果然一千五百七十萬人の觀客を吸收せる驚異的大事實は明白に的確に是を立證して餘りあるべし

松竹キネマ代表的傑作映畫　本邦空前の海洋大活劇　死の假面　六卷
松竹歌舞伎俳優出演　舊劇　尾張大八　全五卷
御觀覽料　▼壹等八十錢　▼貳等四十錢
松竹特約　**大正館**

日本刀で大亂鬪
物凄き光景に流石の
滄松警察も一指も下さぬ

…上りて同市內に百十名の乾分を有する黒金組の大親分通稱黒龜事中野龜太郎及び其一味百數十名と同じ地廻りなる服部組石川松…の一味八十餘名の一團は手に手に日本刀等を以て渡り合ひ大…重傷者外二名は瀕死の重傷を負ひ其他にも十數名の重傷者を出し物凄き光景に流石の滄松警察も一指を下す能はず事件を傍觀するのみなりき原因は縄張爭ひなり

お芽出度うの葉書
宣傳の結果年末に迫つて
殺到輻輳する様な事はない

…年末に迫りて一時に殺到輻輳することなく頗る順調に之を取扱くことが出來た京城局に於て特別取扱開始以來三十一日までの引受た年賀郵便は百三十二萬四千七百八十九通郵著七十八萬百十…十八萬餘通に普通の一萬四千七百餘通を合算したもの約八十萬通引受と配達は略同數になるべきものであるのに斯く左の出來たのは內地の不足氣と郵便物の取扱の不圓滑の爲め…日引受九萬八千二百九十八通到著十八萬二千七百七通で果然年頭になつて到著が非常の多數に上つて居る因に府內各局の一日に於ける配達數を擧げて見ると光化門局の四十五萬三…四百四通西大門十萬二千九百通であるが光化門局の多數なのは朝鮮人間に太陽暦を用うる即ち內地同樣に新年を祝ふ風俗が浸潤したものに原因して居る

上海で衝突す

【上海三日發電】一日夜上海カープロのビクトリヤバーで米國水兵の一團と伊國水兵二十餘名の一團と衝突し双方ナイフピストルを以て渡り合ひ…相につき調査中であるが原因は…明である

謹賀新年

京城旭町一丁目 手打きそば 旭庵 電話一四〇三番

木浦 福田農事株式會社

全南木浦 南北棉業株式會社 朝鮮棉業株式會社木浦工場 鈴木商店木浦出張所 朝鮮製油株式會社

木浦 朝鮮實業會社木浦支店 興業會社木浦管理所 鐘田産業會社木浦支店 國武農場木浦支部

木浦 曾我章四郎

木浦 野上代三郎

群山開田町 會席料理 新月 長電話二六二番

群山明治町 西洋料理 富士亭 長電話二五番

群山開田町 會席料理 明月 電話一三七番

群山九條通 光富印舖 電話一五八番

群山全州通 神林藥店 長電話一四一番

群山港全州通 西村銃砲店 電話一四八番

群山港本町 東洋組 飯塚忠三郎 長電話五三番

群山港明治町 西洋料理 東洋軒 電話一六九番

群山旭町 大澤法律事務所 大坪龍三 電話一五九番

全北沃溝郡臨陂面西山 東川新槌

喪中に付年賀缺禮致候 群山朝鮮商業銀行支店 石井利三郎

群山港 群山米穀商組合 長電話四九番 電話三二四番 電話四三一番

釜山賓水町一丁目 賣藥 藥種商 松村博愛堂 電話長一二四四番

釜山本町一丁目 寫眞機械材料 サンエスウオマン萬年筆 岩瀬商店 電話七五五番 振替京城七七八番

釜山西町二丁目 建築請負 沼野峰三郎 電話長一二二番

釜山府榮町一丁目 セール、フレザー株式會社 關代理店 山中商會 店主 山中德太郎

釜山幸町一丁目 玩具造花 卸小賣 東京堂 電略(ト)又ハ(トケ)

釜山辨天町二丁目 諸金物 山本金物商店 電話七六六 振替京城四六番 電略(ヤマ)又ハ(ヤ)

釜山府絶影島瀛仙町 田中造船所 電話九番

釜山大倉町 土木建築請負業 木下元次郎 電話長六三七番

釜山驛前 荒井旅館 電話七六三番

東萊温泉 荒井支店 電話八番

釜山府南濱町貳丁目 海産物貿易商 千原商店 電話八一番 電略(チ)又ハ(チハラ)

釜山富平町 西條鐵工所 所主 西條利八

釜山西町 銘酒醸造 福田酒釀店 電話長三五五番

釜山南濱町 海運業汽船會社 御用達 灘光商店 電話一四六番

釜山本町二丁目 雜貨 糸物類 島田商店

京日案內

無効屆告

古本 誠實買入 京城本町二丁目 文光堂書店 振替參參七〇番

毛皮 なめし 調製 各種毛皮販賣 京城本町貳丁目 永松商店 電話一五八八番

古本 無比高價買入 御報次第早刻參上仕るべく候 京城本町貳丁目

古本 買入 東京堂書店 京城本町二丁目 電話三四二八番

毛皮 なめし 仕立

毛皮 なめし

恩給 及賜金 低利

ほねつぎ きうじ もみ

毛皮 なめし 製造

觀相

高給

職業 日三回

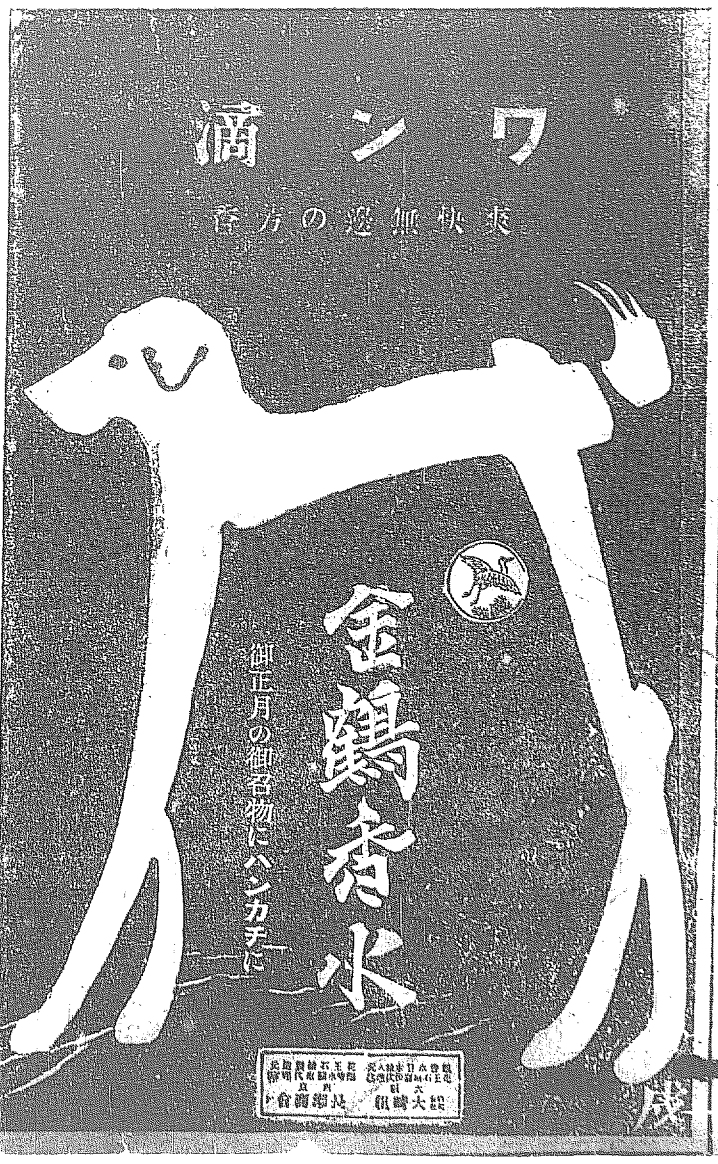
特約店募集 友榮商店

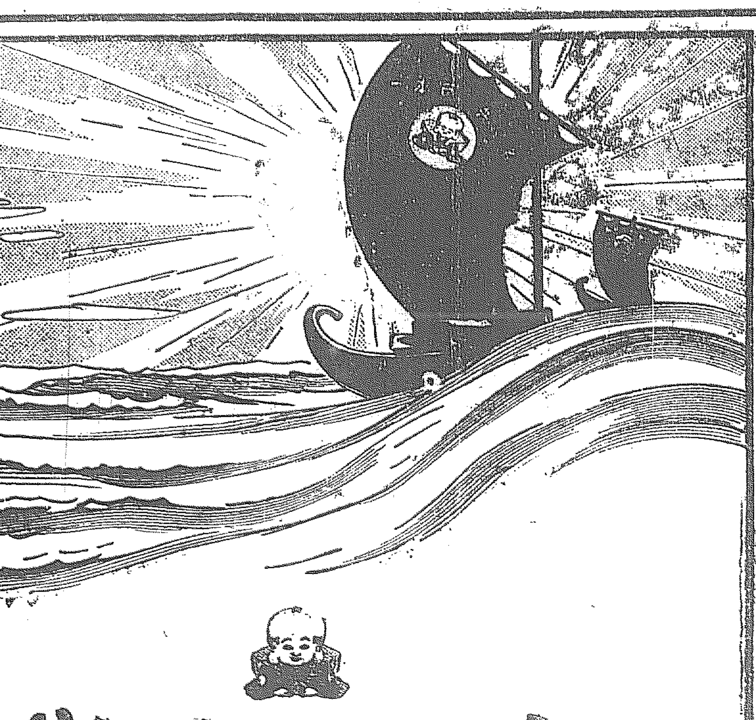
法人登記公告 南川出張所

元山水曜會

朝鮮郵船株式會社元山出張所
內國通運株式會社元山出張所
元山水力電氣株式會社
吉田運輸株式會社
吉田倉庫株式會社
元山倉庫株式會社
元山酒造株式會社
日魯漁業株式會社元山支店

滋養強壯藥 眼鏡印肝油
寒い人も 弱い人も 擧つて飲め 此よい肝油を 最も良く効き 一等飲み易し
到る處の藥店にあり
肝油
大阪道修町 伊藤千太郎商會





福助足袋

賀正

新しき春を迎へ、謹で愛用家並に販賣店各位の萬壽を祝福致します

弊社が大正十一年を迎へました事は、實に意義あり力ある事と云はなければなりません。それは

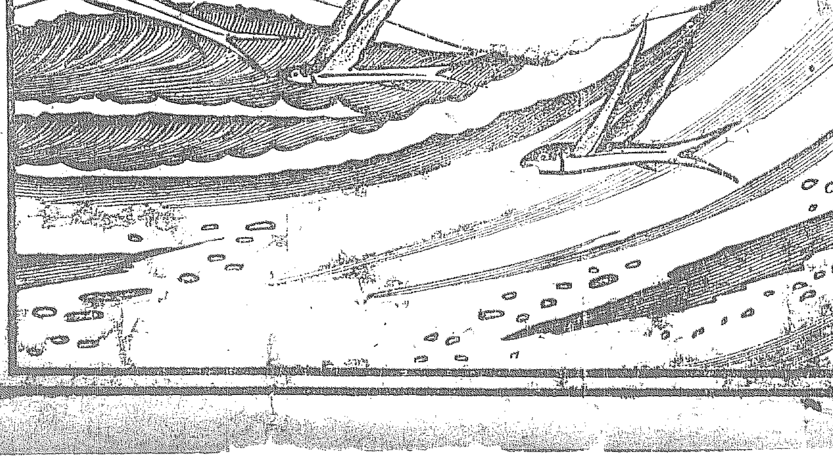
年産能力五千萬足の福助足袋大工場竣成の日

の愈近く迫つてゐる事で御座います。『名實共に日本一』の詞は益輝やかしくなつて參りました。大正の風俗史に、より以上の光彩を放つ事も、文化生活上にその使命を果す事も、更に易々たるものとなりました。皆樣が希望ある新春を迎へられたと同じやうに、弊社も亦此の樂しい春を迎へました事を**福助足袋**愛用の皆樣にお知らせ致します。

大正十一年元旦

福助足袋株式會社

東京・大阪・京都・博多



落語

プラス、マイナス

三升家小勝口演

エヽ新年のお笑ひくさ一席申上げます。無くて七癖、有つて四十八癖とか申しますが、餘程丹念の人が調べたものと見えます。けれども精しく數へたらもつとあるかと思ひます。と云ふのは手つきに癖があり、歩いても癖があります。喋るにも癖がありまして、眼を下にしなければ到底も心持が惡いとか、仰向けに寢なければ何うも寢つかれんといふやうな癖があります。殊に習慣には澤山癖があります。尤も癖も目に立つのと目立んのと、耳立つのと耳に立たないのとの別はありますが、十人寄れば十人ながら皆有るやうで御座いまして、其中に最も目立つ癖があります。頭を叩かなければ口がきけないといふやうな妙な癖が御座います。人の家へ行つて疊の手端を捻る癖だの、紙にして鼻をほぢくる癖ない癖もあります。けれども笑といふものは、どんな悲しい時でも嬉しい時でも出るものだと云ひます。疊の手端を捻るなどゝいふ癖は大概申譯の無いと云ふやうな時に能く出るやうで御座います ○『まア此方へお出なさい △『へえ、どうも御無沙汰を致しまして相濟みません ○『いや態々御呼び立て申す譯ではないが、昨年の暮から金一錢だ、丁度三十日の日に來て、どうしても暮の始末がつかないから助けて呉れろと云つてお出なすつたから、快く御用達申して期附け一本取つた譯ではない、期に賭けるやうだが、私は商賣で金を貸すんでは無い、親切づくでお前さんに御用達つた、ところが、夫つきりお出が無い、せめて御挨拶一本も下されば兎も角、金一錢と云ふものは捨ててお置きなさるのは困るぢアありませんか △『はい、誠に何うも申し譯が御座いません、金は御承知の通り吉兵衛さんと私と二人で、あれは拜借致しましたので ○『吉兵衛さんは此頃遠方へ商賣都合で行つてお出なさるといふ事だ、二人とはいひながら連帶借用であつて見れば、相手が居なくなればお前さんが返す義務がある △『それは然うに違ひありませんが、何分吉兵衛さんは遠方へ御出なさる位で工合が惡いので、と云つて私が半分持つて來てお返し申すも變だから何うか纏めてと、斯う思つて居ります中に私の方でも種々何した處から斯ういふやうな譯で……○『おい〳〵、疊の手端を捻つてはいかない △『御尤もで御座いますが ○『まだ捻つてる、困つたなア、金の方の事はいゝとして、疊の手端を…… △『左樣で御座います ○『左樣で御座いますつたつて、捻つてはいけない一昨日取換へたての疊だ △『あゝ左樣で御座いますか、道理で捻るのに骨が折れる ○『骨を折つて捻らないでもいゝ、困つた人だ、これが癖だから自然に出て來る。習慣の癖といふものは、お喋舌の人は餘りにあるかと思ふと無口の人にもあります 熊『大分景氣がいゝな 民『景氣がいゝ譯もやアねえが、酒が無かつた日にやア仕樣だ、其代り他なんぞ何んでも飲める、此間鳥羽平を隣家から貰て呉れたけれども鳥渡飲めるねえ、彼奴を又こつてりと詰た奴はおつなものだ 熊『うふッ、詰らねえ事を云ふ野郎だな、然ら何だつて鳥羽平をこつてり詰て飲める奴があるものか、お前位詰らねえ事を云ふ人間は無えよ 民『然うで無え、どうだ一つ飲まうぢやねえか、何處へ行から 熊『それはお前は酒が極々好きで俺は又飲むには飲むけれども、ほんの交際酒で何か大勢でわい〳〵騒いで飲めば、まア俱に浮かれて飲むと云ふ譯で遣らなく二人でちびり〳〵酒を飲むんで、ごて〳〵云つた酒が遣らねえ 民『止しなよ、先刻からお前一盃おきに遣らねえ〳〵と云ふが、人間といふ奴は、此結構な世の中に出て遣らねえ事があるもんぢやアねえ、俺が遣らねえ 熊『遣らねえぢやアねえか、考へれば考へる程遣らねえ 民『お止しよ 熊『お止したつて遣らねえ、えゝ馬鹿氣てらア、民『まだあんな事を云つてる、どうせ此方等は職人だ、仕事さへ忙しけりやア大名だ、心持ち好く飲む酒と云ふ奴は肴が無くつても美味く飲める、心持ちの惡い時には佳い肴を並べられても、女の子が傍に居ても美味くねえ、鳥渡淡泊と何かで一つ飲まうぢやアねえか 熊『お止しよお前は習慣に〳〵があつて見つともない、一々飲める〳〵と云ふが、お前は酒が好きだから好いだらうが遣らないからお止しよ 民『おい〳〵人の事を云つたつて、遣られえと云ふのがお前の〳〵だ 熊『好いぢやアねえか 民『好いたつて、遣られえ〳〵と云ふなア好くねえ癖だ 熊『好くねえつたらお前の方が餘程好くねえ、お前は酒が好きだからいゝが只のめると云ふ習慣は縁起が惡いぢやアねえか、人間のめつて終れば、落魄れだ、身代がのめれば身代限り 民『然う惡い事に使はなけりやアいゝ、遣らねえといふ習慣は何う使つても險氣でいけねえ 熊『何も險氣てえ事はねえ、併しまアそんな遣らねえ事を爭つたつて遣らねえから斯うしやう、二人ながら癖といふ事を云ひつこなしにしやう 民『其奴ア面白い、ぢやアこれからのめると云ふことは云はねえと 熊『俺もつまらねえつて事を洩して云はねえ、それは只ぢやアいかねえ、何方がいつても罰金を取りつこにしやう、お前がのめるといつたら二分な二分……五十錢お出し、俺がつまらねえといやア五十錢出す、何方が取られるにしてもお互に遣られえ譯だが 民『それお前いつた 熊『まだいかねえ、これからだ、まアいつたら五十錢宛出しつこと斯う極めやう 民『成程、ぢやアいゝかえ、手拍子をうつて……もう是から何方でもいへば罰金だよ 熊『いはねえとも、民『俺だつていふものか…… 熊『けれどもなア、天氣が斯う續いて、鳥渡肴の新しい奴か何か來た日にやア遣らねえな 民『罰金だ、それこそ……うむ……こう畜生、馬鹿にするない迂闊口がきけねえや 熊『ぢやア約束したぜ、又會はう左樣なら 民『うむ左樣なら……忌々しい野郎だ、天氣が續いて氣がありさうだつてやがつて、危く俺がやる處だつた、これは迂闊云はれねえ、錢は何うでもいゝが先へ取られのが癪に障るからな、一番ふんだくつて遣りてえな、何かいゝ工夫がありさうなものだ……

隠居『おい民さん 民『あア今日は、何うも久しく御無沙汰を致しました、どうもねえ此方がたは御隠居の御身分で、早く寢て、緩くりと起て朝湯にでも行つて來て、盆栽を眺めながら御茶でも飲んで、其所へ酒の仕度が出來る頃から鍋立で、烏賊に枝豆腐とくると鳥渡飲めるなア、お前さんの前だから云つても構はねえが…… 隠『何だえ、私の前だから云つてもいゝと云ふのは 民『實は御隠居さん、斯う云ふ譯があるんで 隠『何だか知らないが、まア此所へお上り、さアお茶をお飲み 民『へえ、お茶も結構で御座いますが、少しお願ひが御座います 隠『何だえ 民『私の友達に熊と云ふ男があるが御存知か 隠『熊さんと云ふ方は能くは知らないが何だえ 民『その野郎が大變に習癖に癖があるんで、何でも人の顔を見ると遣らねえ〳〵と云つて騒いで許り居るんで、其奴に今日遇ふと、又遣らねえと云ふから、手前は好い事があつても遣らねえ〳〵といふ、不縁起だから止せと斯う云つたんで何ぼ何だつて餘り嫌〳〵しいぢやアありませんか 隠『はア、妙な癖があるもんだね 民『所が私も是で癖があるさうだ、私は酒飲みだからつい云ふんだが、飲めると云ふのが癖なんで、先刻も此間鳥羽平の酒たのを隣家から貰つた鳥渡飲めると云つたんで、すると熊の野郎がお前は何に付けてものめる〳〵と云ふ、見つともないと、其處でまアお互に癖と云ふ奴は可笑しいから云ひこつなしにしようけれども只ぢやアとても駄目だ、然と二人連なら守れるだらうと云ふんで、云つた者は罰金として五十錢宛出す事に約束したんで 隠『成程面白いな、それではお互に氣をつけるだらう 民『それに就てね御隠居さん、貴方は種々な事を考へるのが御上手だがあの野郎が詰らねえーと二三度云つて呉れると、鳥渡此處で小遣が取れるんだが、どうか一つ工夫してお貰ひ申してゑんで… 隠『うーむ、併しお前、お互に友達同士で癖が見つともないから直さうと云ふんで約束をしたんだらう 民『それは然うで御座いますけれども、此奴又然と二人連で、つい口が辷つて先方へ先に取られるのは氣が利かねえから…… 隠『それも然うだね、私は熊さんと云ふ人を知つてる譯ではないから、同じ事ならお前さんに取らせた方が心持がいゝ、そんな工夫は譯のない事だ、まアお待ちよ、一服するうちに何とか工夫して上げやう……あゝ丁度好い事がある、お前の今居るその扮裝が極好い、足袋跣に股引でそれに腹掛になるんだ、少し許り手の先や半纏の端の方へ糊をつけて、熊さんと云ふ人の家へ飛込んで行くんだ 民『へえ 隠『お前笑つちやいけない、落着いてやるんだよ、お前に話すのは初めてだが、俺には練馬に伯母があつて、伯母の所から澤庵大根百本買つたが、今年は陽氣の故か大變大根が好く出たと斯う云ふ、民『へえ! 隠『澤庵を漬けやうと思つて二階を捜して見たけれども四斗樽が無いと云ふんだ 民『私の家には二階はねえんで 隠『物置でも何でもいゝ 民『物置もありません 隠『困つたなア、家中捜したけれども、四斗樽がなくつて醤油樽の古いのが一本あつたが、醤油樽の中へ百本の大根が詰るだらうかと斯う云ふんだ 民『へゑ 隠『とん〳〵とん〳〵拍子に云はないと先方が釣り込まれないよ 民『へえ 隠『伯母の所から澤庵大根を百本買つたが、醤油樽に百本詰るだらうかと、とん〳〵と云ふと夫は詰らないと屹度云ふ 民『どうも有難う御座います 隠『大丈夫行くよ、不思議なもので、とん〳〵〳〵と拍子能くやるんだ、然し慌てちやいけない、沈着てな 民『どうも有難う御座います 隠『さアお茶をお飲り 民『へえ、鳥渡行つてやつて來ます、うまく行つたら隠居さん御茶菓子を買つて來ますよ 隠『然うかえ、それは有難いな 民『ぢやア御免なさい……家へ歸ると教はつた通り膝だらけになつて 民『お熊…… 熊『何だ騒擾だな此奴、突然に這入つて來て、何うしたんだ頭白になつて…… 民『お前に話すなア初めてだが…… 熊『何を 民『うーむ、お前に話すなア初めてだが、今年は何だ 熊『なに 民『練馬に伯母があるんだ 熊『ふうむ 民『それで大根がある 熊『練馬は大根の好く出來る所だ 民『まア默つてろとん〳〵〳〵 熊『何だ 民『え一練馬に伯母があつて、ひやつ〳〵〳〵百本といふは隨分だ 熊『何をいつてるんだ 民『澤庵大根を百本買つて、これから漬やうと思つて……二階は無しえ物置きはなし 熊『何だ 民『とん〳〵と、その家中捜して、醤油樽が……その四斗樽と醤油樽と…… 熊『何を解らねえ事をいつてるんだ 民『だからよ醤油樽は小さいだらう 熊『なに 民『臺所の隅からまア醤油樽を一本捜し出したんだ、百本大根を買つたんだ 熊『うまくやつてやがる、百本の大根といつちやア大變だ 民『默つてろ、とん〳〵がとん〳〵で百本の大根がどうだ醤油樽へ詰らうか 熊『ふん馬鹿も休み〳〵云へ、肥りにしても知れさうなものだ、百本と云へば隨分嵩がある 民『今年は大根がよく出來てるんだが、醤油樽へ詰らうか 熊『馬鹿にするない、百本の大根が…… 民『兎も角詰らうか 熊『やア畜生、何を云やがるんだ 民『だから百本の大根が詰らうか 熊『うーむ 民『どうだ詰らうか 熊『這入り切らねえ 民『何を云やがるんだ、百本の大根が詰らしてえんだ遣らねえなア、とん〳〵と、醤油樽の中へ百本の大根が詰らうか 熊『殘るよ 民『殘るのを無理に押込んだら詰らうか、熊『そんな眞似をすりや底が拔けちまはア、馬鹿、是ア手前の智慧ぢやアねえな、誰かに入智慧をされて來やがつた、そんな欺罔を食ふ俺ぢやねえ、お前なんぞに嘘搶ちやア勝られねえ、おゝ羽織を出して呉れ……お前歸るなら其所迄一緒に行から、民『何だ美裝込んで羽織なんぞ引掛けて、何所へ行くんだ 熊『なに友達から迎ひが來たんだ、碁が初まつてる樣だから迷惑だけれども、行かなけりやアならねえ鳥渡隣町まで行つて來るんだ 民『ふうむ、うまくやつてる、飲めるな 熊『あッ云つたな五十錢出しねえ 民『えゝッ 熊『飲めると云つたら 民『あッ…… 熊『口を開いたつて仕樣がねえ 民『あゝ弱つたな、うーむ ぢやア仕方がねえ…… 熊『愚圖〳〵しねえで早く出しねえ……よし五十錢確に受取つた、風が這入つていけねえ、跡を締めてつて呉れ 民『おや羽織を脱いでやがる、熊『道の所へ行かねえのかい、おい 熊『嘘だ 民『あッ、泥棒…… 熊『こん畜生何が泥棒だ、大きな聲を出すな、間拔け奴が顔出して來い、風が這入つて仕樣がねえから跡を締めて行け 民『あゝ、いかねえや……隠居さん 隠『おい民さんか、お茶の仕度をして待つて居た、羊羹か何か買つて來たかえ 民『どう致して 隠『あゝ果然して居るのは遣損なつたね 民『へえ突然這入つてくと、逆捩を食はせられたものだから、獅子が狂つちまつて餘りとん〳〵と行かなかつたんで 隠『どうしたえ 民『醤油樽と四斗樽と慌をくつて何方が大きいんだか、解らなくなつちまつた 隠『いかないなア 民『それからやつと、とん〳〵と遣んで、醤油樽へ百本の大根が詰るかと斯う云つたんで 隠『うむすると、馬鹿も休み〳〵云へ、百本の大根がそんな事をしたつて醤油樽へと云ひかけて氣がつきやアがつてにや〳〵笑つてやがるから、何うだ詰らうかと云ふと這入り切られえと云ふんで夫でもまだ詰らうかと云つたら、殘ると斯う云やがる、殘るのを無理に押込んだら詰まるかと云ふと底が拔けちまう、馬鹿、手前の智慧ぢやアなからう、そんな欺罔に引掛るやうな俺ぢやねえ、出直して來な〳〵と事を云やアがつて羽織を着て出掛けやうとするから、美裝込んで何所へ行くんだと聞くと、友達の所から迎ひが來たんだが、碁が初まつてるだらうから、迷惑だけれども行かなければならねゑ、一緒に其所まで行かうと云ふんで、それから私がうまくやつてる飲めるなと云つたんで、反對に五十錢取られた 隠『おや〳〵、お前さんが取りに行つたんぢやアないか、此方から進んで行つて五十錢取られると云ふなア譯はねゑ 民『あツお前さんだつた、半分お與んなさい 隠『私アお前と何も約束をしないから、半分も四斗分も遣る譯が無いけれどもお前が取られて歸つて來たと聞いて、それで好い心持の譯のものではない、困つたなア、失敗ながらお前さんより先方の方が役者が一枚上だね 民『役者ぢやアない、職人なんで 隠『いや、お前より先方の方が打附けて云へば桁際だと云ふ話だ、民『おや〳〵、此上馬鹿まで聞けば澤山だ、私はつい口惜しいもんだから、まごついて了ふんで、もう一つ考へてお與んなさい 隠『ぢやア斯ういふ事が出來まいか、先方に何か勝負事で碁とか將棋とか云ふもので好きな事はあるまいか 民『將棋と來た日にやア夢中なんで 隠『夫は面白いな、お前さんはお好きか 民『それが私ア知らねえんで 隠『碁はどうだ 民『碁なぞは五目もやつた事がねえ 隠『それぢやア此頃新聞や何かに盛んに出て居るが、詰將棋と云ふ奴がある 民『へえ 隠『あんなやうな工合に、お前がその人の來る時刻を計らつて考へて居たら、好きな道だから多分引掛るだらうと思ふんだ 民『へえー何うやるんで 隠『夫の使ひ方位知つてるかえ 民『それも能く知らねえけれども少し位…… 隠『名前は 民『名前だけは知つてゐます 隠『然ういふ人で定めし將棋盤もなからう、之を持つて行つて、少し寒くとも門口の障子を開けて、其所で將棋盤を眞中へ据て外に何もいはないで王將を眞中で置いて然うさな、駒は步三兵に持駒金銀三枚と云ふやうな形を持つて居るんだ 民『へえ 隠『どう考へても詰む譯がないか、幾らか深くやるんだと聞くに違ひないから、聞いたら何とかいゝ加減な事を云ふんだ、來る時間を計つてやつて見たらよからう 民『え、野郎湯に行く時に乾度寄ります 隠『それは丁度いゝ、お前が頻りに考へてる所へ寄つて見て手を出す、どうせ詰む氣遣ひは無いんだが先方が知つてるだけに鳥渡考へる、此遣り方は新聞にでもあつたのか、古い詰將棋にも餘り見た事が無いと聞くかも知れない、然うしたら所謂の隠居と云へば名代の將棋指だ 民『へえ 隠『所謂の隠居さんが考へた詰將棋だと云つて外に何も云はないでお前が一生懸命考へて何も俺にはうまくいかねえと云ふ樣な工合を見せて、充分先方で氣の這入つた處でどうだお前に詰らうかと誘ひ出すんだ、口數をきくと氣附かれるからその心算で解つたかえ 民『えゝすつかり解りました、之で取返さなけりやアならねえ有難う御座います、此盤を借りて行きます 教はつた通り家へ歸つて障子を一枚開けて、其處でやつて居ると、手拭をぶら下げて 熊『お湯に行かねえか 民『やつて來やがつた 熊『何か夢中になつてやがる湯に行かねえか 民『はてな、是へ打つと……王手とやる 熊『何をいつてやがるんだ……あゝ將棋だなんだ相手なしぢやねえかあゝ詰將棋かよし面白い、こう退な……是ア面白えな王將は裸かえ 民『うむ難からうと思ふだけれども裸だ 熊『何をいつてるんだ、持ち駒を見せな 民『これだ、熊『步が三兵に金銀三枚、珍しい詰斯ういふ詰方は見た事がねえが、知つてやアしねえか 民『うゝん 熊『珍しいけれども新聞にでも出て居たのか、それとも古いのか 民『なアに考へたんだ 熊『誰が 民『え一 熊『誰が 民『鰯町の米屋の大將は隨分將棋が強いな 熊『米屋の大將が考へたのか 民『然うぢやアねえ 熊『誰だよ 民『八王子ぢやアねえ何よ、[illegible]中野でもねえ……うむ所澤 熊『なに 民『所澤の十古さんといふ人が考へたんだ 熊『はてな所澤に十古てえ人は聞かねえな藤吉ぢやねえか 民『あゝ然うだ藤吉、十も藤も變ぢやア同じだ 熊『藤吉さんなら面白いな待ちなよ……どうしたつて桂をつけるとか、香車をつけるとか…… 民『先づ槍で突き通して…… 熊『默つてろ何か外に駒があるだらう 民『うむ是だけだ、どうだ詰らうか 熊『待ちな考へてる間に味があるんだから……此方へ行くと步三兵といふ奴が解らない 民『どうだ詰るか 熊『待ちなさう急いではいかない、考へる間が樂しみだ、斯ういくと斯うと……詰るか〳〵 熊『此奴ア幾ら考へても詰らねえ 民『しめた、あゝ有難え、熊『何だ 民『云つた 熊『はッ畜生、あやがつたな、併し敵ながらも天晴だ 民『どうだ云つたらさア遣せ、遣さなけりやア巡査を連れて來る 熊『何を云つてるんだ 民『さア遣さなけれやア承知しねえ 熊『遣らねえとは云はねえまア待ちなよ、手前にしちやア馬鹿に考へがうめえや、褒美といふ譯ぢやアねえが、五十錢の儲だ、一圓遣らア、これからは一圓の儲だぜ 民『あ有難くてえ、五十錢儲けたれらは飲めらア 熊『あッ差引いてかう……。（終）

謹賀新年

謹賀新年 武田卓爾

旅行中歳末年頭缺禮致候 奥田直毅

鎮南浦 南浦活版所 電話二二番

鎮南浦明倫町 南浦材木商會 長一五七番

日滿漁業株式會社 沙里院支店

平壤府幸町 石井雜貨店 電話五六二番

綿糸布商 青見洋行 京城出張所 京城長谷川町 電話二四番 一八八四

通川炭鑛

製絹所並雜貨類 絹紬各種小間物製造元 ドエジプト金口煙草總代理店 安東縣四番通六丁目 金子本店 支那街電話四三一番 金子絹紬工場

貿易商 豆粕豆油製造業 日陞公司 安東縣江岸通一丁目

新義州高等普通學校 齊藤欽二

安東縣大和橋通五丁目 土井醫院 主 土井朝松 電話一三七番

安東縣市場通三丁目 諸雑貨 御料商 福田商店 電話三〇番

安東縣五番通五丁目 管原寫眞館 電話二五八番

滿洲安東縣市場通七丁目 電機商 株式會社 寶信洋行 安東出張所 電話長五三五番

三井物産株式會社 安東出張所 大六製材所

安東縣右堂街 福隆公司 電話日五八 中四三〇〇番

安東縣右堂前街 各國雑貨 今井洋行

安東縣市場通七丁目 諸雑貨紙類 中原商店 電話三三五番

忠州大手町 土木建築請負業 長谷德太郎 電話一〇番

忠州郡守 申昌休

忠州本町 原口商店 電話一二番

忠州本町 水野吳服店 水野彌吉 電話三〇番

旅行中に付欠禮 忠州大手町 飼原長藏 電話二二番

忠州 末廣館 稻田四馬治 電話六七番

忠州錦町 加納屋 電話二六番

朝鮮自動車運輸株式會社 忠州停留所

忠州本町 吳服雑貨 二軒谷市松 電話一〇二番

忠州日三出町 鶴屋旅館 宮地幸吉 電話四一番

旅行中に付欠禮 忠州 鹽田親介 電話三四番

忠州仲町 田村醫院

忠州 辯護士 近藤守藏 電話三九番

忠州錦町 星光館 星野竹治 電話二九番

忠州本町 松金 後藤松次 電話六四番

忠州 富士屋旅館 藤原敬吉 電話五〇番

忠州 忠州殖産株式會社

忠州 重之家

忠州本町 梅木商店 梅木寫眞部 電話五六番

忠州仲町 忠州印刷社 上戸直瀬

忠州大手町 金物商 佐藤綱吉 電話五二番

忠州錦町 忠州信託

忠州 精米所 田中睦之助

忠州錦町 富國寫眞館

忠州 あけぼの亭 小島政政 電話四三番

忠州日出町 土木建築請負業 本部申三郎 電話三六番

忠州郡 郡書記 原田文作

株式會社 安東印刷所 安東縣四番通六丁目 電話長一五五〇番

海産物貿易商 伊佐奈商會 安東縣支店 安東縣江岸通一丁目 電話一三〇番

木材商 北田榮太郎商店 安東縣市場通 電話四三一番

原木製材 鴨綠江製材株式會社 專務取締役 加茂吉 電話三二番

精米業 田中精米所 安東縣三番通 電話五二一番

安東縣驛前 土木建築請負業 御料理仕出し 松竹亭 松永九市

安東縣六番通七丁目 大倉ミツ 電話四九八番

安東縣三番通四丁目 土木建築請負業 荒川商會 荒川忠彦 電話一五一番

安東縣三番通四丁目 土木建築請負業 伊藤清三郎 電話四七一番

安東縣五番通七丁目 土木建築請負業 家具一式 安藤工場 電話三九七番

安東縣堀割南通 土木建築請負業 重松組 重松島太 電話三二八番

安東縣江岸通 海陸運送業 今成組 電話一五九番

安東縣江岸通 川崎材木店 電話一〇九番

安東縣江岸通 丸一製材工場 電話四二四番

安東縣市場通り 安東名物 三福壽司 電話四七四番

安東縣市場通四丁目 蒲鉾 石本造 電話九二

安東市場通り 岩本靴店

安東縣江岸通 鐵道貨物取扱 通關代辨 大正運輸公司 電話一七一番

安東縣 海陸運送業 運送店 電話五〇一番

安東縣郵便局前 海陸運送 通關代辨業 運送店 電話五〇二番

全北井邑郡守 朴喆熙

全州本町二丁目 安武釀造場

全州大正町二丁目 にしき屋洋服店 田代育 電話四六番

全北金堤 大正旅館

全州郡東上面大雅里 水野廣之進

全州本町三丁目 化粧品雑貨商 安富商店

全州大正町四丁目 辯護士 法學士 木尾良清

全州本町三丁目 黒木祐恭

全州公立農業學校 職員有志

全州八達町 東京齒科醫學士 平野井齒科醫院

全北益山郡大場村 田坂佑三郎

全州大正町二丁目 辯護士 山田彦光 電話五〇番

全州大正町二丁目 内外科 小兒科 岡村醫院

全州煙草耕作組合職員

全州本町三丁目 銀杏屋旅館 電話一番

全州本町三丁目 旅館家屋も落成に付き 菊の屋旅館 電話三六番

全州大正町三丁目 日の丸旅館 電話一〇番

全羅北道金融組合聯合會理事長 村松保度

全州金融組合

全州山院金融組合

沃溝臨陂金融組合

金堤金融組合

井邑金融組合

高山金融組合

古阜金融組合

參禮金融組合

咸悅金融組合

龍北金融組合

忠清北道清州金融組合理事長 藤井班象

清州 御料理 六石

清州 材木商 川島由三郎 電話五七番

清州本町 忠清興業株式會社

株式會社朝鮮殖産銀行 清州支店

穀物肥料 酒醤油 川島修治

御料理 北一樓 電話二五番

清州本町三丁目 青木堂藥局

清州本町三丁目 ハカマタ商會 同印刷部

清州金融組合

清州局前 小松屋旅館

清州本町五丁目 土木建築請負業 後藤萬之助

清州本町四丁目 御宿 官衙指定 清州館 電話六一番

東京牛込區東五軒町 土木建築請負業 前田組 電話番町一六三一番 朝鮮清州出張所 電話八番 朝鮮鳥致院出張所 電話五七番

新年懸賞文藝

短歌　尾上柴舟選

新春雜詠

一等（賞金五圓）　京城大和町一丁目一　江島雨庭

○霞ごもり日はもさゝねど春なれや空を仰げばまぶしさ覺ゆ

二等（賞金三圓）　龍山大島町二五　黒澤細丸

○年たてる都大路を現榮の服著て通ふ我が心はも

三等（賞金一圓）　龍山滿鐵社宅七ノ一　深澤清之助

○ひとりもの正月ぞとて何になろ寮のみ寮のまゝただ煩悶吸ふ

佳作

○龍山　深津清之助
ほのぼのと明すれば山に來て暘を待つ人の焚火赤しも

○京城　永田豐
やはらかに春の日照れば生命あるものゝすべては歡喜に滿つ

○門司　松坂義助
港邊の船に光れる淡き燈のさびしさ深き新年の海

○京城　大塚みよち
黎明の晴れたる空にむかひつゝもろ手をあはせ陽ををろがみぬ

○京城　中澤暉九洋
御ちましゝましと言へど二つにてはしをきたり母老いしかな

○京城　平井良介
祭の爽霧は晴れて赤根さす新春の陽は生れ出で殘

○京城　久保田暮暉
讀み上ぐる聲々しゞ鬱に夜の更けてかるた取る娘の眼の鋭どさよ

○京城　市丸寛人
臘を拘る身にはあらねど如何せん鳥は散へり春ぞ來ぬると

○東京　雁本樂山
彼の森と此の森と雁鳴き交す元日の朝の里の靜けさ

○金郊　梅野草二
草萠えてうれしき日をば泣く泣くも去る鳥のごと國を出でにき

○門司　小西宇三郎
暖かき光り浴びつゝ河原の鶴みにむける蜜柑甘しも

○京城　野田北影
春の日の光りを浴びて楼下の名も無き草も芽のびして居り

○江西　松井まなぶ
豆ランプそと吹き消しぬ新年もやはり寂しき旅路のわれは

○仁川　鴨川かずを
河波の靜寂にきら〳〵と初日照り映えにけり
河くだる船のあるらし元朝の霧の中より波光る見ゆ

○平壤　佐々木潔
天そゝるこゞし岩山岩の根にこゝぞも靑きふきのとうかな

○京城　茶士園
南天のつぶら赤實の下かげに親子供はをりてあそべるも

○海州　末田あきら
近々と芝居幟のはためくをうれしみてきく春の朝かな

○京城　中村百姓
里川の枯れし蘆影にひそみてゐて春を覗ける小魚の瞳

○佐世保　吉原猶雨
海を出づる初日きらゝに巖頭の朱欄の宮の右にゆれ居り

○京城　江上淸
今年また昔しからめと美酒に父醉ひませば心足るべし

○群山　香原流玖瑠
去年と同じ春の晋現符き終へてをかしくなりし新日記帳

○京城　河原崎曉星
春の雪深きちまたに初荷酒隊揚げ引けど賑たかりけり

○永登浦　稲田
陽にむかふ梅の蕾のつまやかに紅らむ見れば春來たるらし

○大田　德子
明けし世に安く生くれば元朝の鎖の響搖くことも嬉しき

○京城　羽島夜詩
元日の寥き夜ふけて醉たみの笹のすれ合ふ響の淋しさ

○京城　郁子
ほの〳〵と向ふ丘より出づる日の今朝は大きく見えにけるかな

○京城　郁子
年たゝぬ日より開きし梅の如吾が身の運も開けよとこそ

○水原　村上筑紫子
閑居部屋椽に初日のかげみちて伸する小猫のさま長閑なり

○仁川　田川富士香
今年はと同じ言のみ繰り返へしては同じ事しつ

○京城　松尾笭州
あたらしき歲ぞといひて家每にまとゐする夜は母をしぞ懷ふ

○京城　木村巴東
我が鄕の誇なりける門松を五歲故に見ぬが悲しき

○延白　研雨
しとやかに禱きごと申す人みれば昨夜嫁きたる妹なりけり

○京城　迹金翠崑
學校に入るてふ年の正月を喜ぶ妹の姉まなびして

○江西　松井學
旅にして二十五春を迎へぬとただ一言を君に告げまし

○河東　高橋よしき
樂屋洩る灯明り白し初春の材木置場に雨降る音し

○龍山　百瀬千尋
哀しくも三十路男の口笛か所作なきまゝに元朝を吹く

○京城　原義郎
天つ日のうらゝかなれやだみ聲を張り上げ通る人の多しも

○長崎　矢野江村
新らしき希望に生きて元朝の初日の門に獨りほゝ笑む

○木浦　鵑吉淸次
大空にあけぼの色の滿ちわたりゆたけく春に入る心地かも

○淸州　片岡棉花
わが胸の赤き血潮の渦きてあふれむとする春は來にけり

○東京　小田ひでじ
習心あたらしき世の初春の光にふれて何か祈らむ

○仁川　筑紫しげる
はらからと丘に集ひて今昇る海の初日をおろがみやまず

○京城　劔木翠子
心持ち重げにかしぐ高髷の銀元結に春の陽のてる

○義州　桑田白水
兎にかくに今年はうまく生くべしと年の朝を言明げたり

○大田　千畝子
拜賀式行くいたいけな兒を見れば額に溢るゝ年の嬉しさ

○順川　高光ときは
瓦斯の灯の映えて疊の美しく高きにカルタ並べられたり

○京城　柚實子
うら若き瞳にうつる物のみな年立つ今朝は淸し新し

○大田　日野茂
初春を迎へて我の心踊る今年は思ふことなるかと

○京城　中村ひさご
あゝ永久にかくせあれかしと人皆の年の初にむつめる心

○仁川　怪浪吟
初日さす峰の白雪輝きて極寒の空の朝靜かなり

○臨田　竹之間蓼花
鏡なす大海原の初日の出艫の引く波碧く輝く

○龍山　小林翔二
杉竹の軒端を縫ひて滑かに滑かにしゝ龍車の走る

○龍山　小森行也
嬉しくも春こそ來つれポッチリと軒の柳の芽のふくらみぬ

○高山鎭　川田宿蓼
兄弟と故鄕にをらば若き身の樂しかるべきを淋しき春哉

○黄海　ひろし
舟人は苦押し上げて安らげく榮えのぼる初日拜みつ

○京城　小林軒二
靜かなる年のはじめの沖つなみ紅に染め初日のぼりぬ

○陝川　金燦求
初空に御旗ひるがへし大山の搖ぐが如く出づるふねかな

○京城　遠山翠泉
門松の雪を散らして宿雀が鳴き交ふこゑも元朝はよし

内藤鳴雪氏試筆

新年懸賞文藝　俳句　内藤鳴雪選

初刷

天（賞金五圓）　平安南道鎭南浦　大黑鶴月
初刷や八道かけて御代の春

地（賞金三圓）　慶尚南道鎭海菊川町　吉村飛洲
初刷のあしたまたるゝ今宵かな

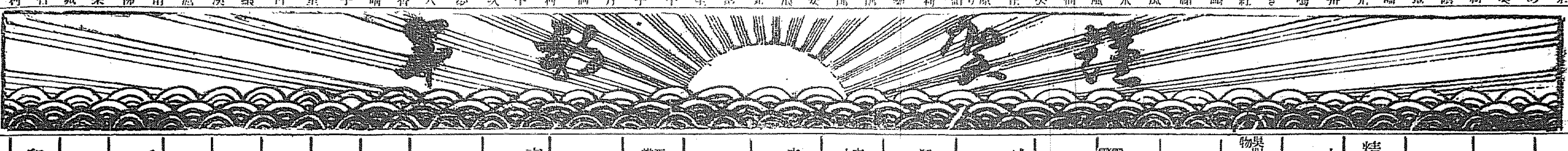
人（賞金一圓）　忠淸南道大田春日町　大田三舟
初刷や啼く鷄にせかれつゝ

秀逸

○義州　宮崎閑雲　初刷を積みし車や雪を蹴て
○京城　迹金翠曉　初刷のものなつかしき文字かな
○大田　松本十字　初刷を擱げて餘まる机哉
○順川　熊谷正蟬　初刷を見て美しき昨かな
○大田　中島千畝　初刷や京の戸叩く朝ぼらけ
○京城　楓木可笑　初刷や昇る旭にひらひらと
○晉州　風零子　初刷や君を頌する獻一首
○大邱　一貫一許　初刷の文字に親むそれも春
○釜山　高柳千畝　初刷の工場明るき朝灯し
○晉州　朝倉久萬子　初刷に嬉し我が獻君が獻
○交河　野村蘆花　さはやかや初刷くばる鈴の音
○岐阜縣　宮川星之介　初刷の高張高き大路かな
○岐阜縣　加藤茂　初刷や部屋一杯に讀み散らす
○京城　但野郁子　初刷や酒の値を問ふなかれ
○仁川　矢田右大臣　初刷や松竹梅の鉢の下
○京城　雪の家　初刷や子のかゝへ來る一束
○府內　麻田蓼花　初刷や乾坤忽ち新なり
○京城　木村巴東　初刷や神寶の書の鮮かに
○京城　中澤暉九洋　初刷や鷄黑々と力あり
○淸州　秋山光夫　初刷の飛かところ海も山もなし
○京城　沙夢呂　ぬかるみの戸口に落ちし初刷よ

佳作

○寶城　藤木白雪　初刷や賀子の聲も屠蘇機嫌
○熙川　宇高此小人　初刷の鈴に明け行く今年哉
○平北　板橋無曲　初刷の文字も新らしく讀みにけり
○鎭二浦　上田乾雨　初刷や生で印迎ある御代のさま
○鎭南浦　松岡曉星　誇落て人は初刷の仕事哉
○京城　冨田四樂　初刷の辭を盡くし文美を盡くす
○平北　永淵肥州　初刷や京の名妓の舞ひ姿
○永興　榮月　初刷を手にして人の笑顏哉
○大田　池田中京　初刷や戸に投げ入るゝ音高し
○開城　かもめ　行き合ふや初刷配る鈴の音
○仁川　佛可樂　初刷やまだ見ぬ人の懷しき
○京城　丸山淸剛　初刷を見せ參らする祖父母哉
○京城　小澤水蔭　初刷や筆の花咲くさく種々に
○京城　無名小草　獨居て初刷讀むや桐火桶
○大田　櫻田鉄崎　初刷をポンと投込む小楼哉
○利川　古谷沂光　初刷や皆穩健の筆にして
○京城　渡邊芝卅　初刷の書にも氣高し不二の山
○京城　浦鳴　初刷の鶴の香も今日はたゞならず
○新上　みつぎ　面白き初刷物の鳴哉
○大田　名倉東天紅　初刷を鐵手に採く眾りかな
○門司　小西琢磨　初刷の取り散らされて春の家
○釜山　宮本菊　初刷や去年の宵より刷り立てゝ
○河東　高橋糸瓜　初刷を持ち出す朝の日向かな
○淸州　流水　眠ゝ顏に初刷伏せて寢てありぬ
○安城　紫風　初刷や鷄の香さへも新らしき
○京城　鶴仙　初刷を親子集ひて讀みにけり
○龍山　十八公　初刷のいつも名家乃筆の跡
○京城　翠丘　初刷のそれや筆硯多福なれ
○利川　小原　去年のも初刷出して見たりけり
○平壤　宮原露笛　初刷の金鈴冴えて聞ゆなり
○鳥致院　福島安利　初刷や嬉しく刷る輪轉機
○羅州　龍原喜樂　初刷に瑞氣溢るゝ此土哉
○京城　江島克朗　初刷のげに新らしき心かな
○大田　增田喜八郎　新聞の文字鮮かに初日射す
○平南寺洞　靑澤平安　初刷や金線眼鏡いかめしき
○滿洲　淸水竹浪　初刷を投げ込み去るや冠木門
○京城　鈴木丸　初刷やにぎやかに讀む床の中
○釜山　能網紫影　初刷を見る百姓や閑爐裏
○仁川　菊池鴨生　和氣滿つる朝や初刷開かるゝ
○龍山　長澤龍子　初刷や日暮れて屆く京外れ
○晉州　鎌倉風零子　初刷の紙上を飾る我句かな
○高崎市　久住松月　初刷の人皆若き寫眞かな
○京城　岡田牛耳洞　ばり〳〵と開らく初刷の匂ひ哉
○咸南豐山　遠原要村　初刷やこのもかのもの名士の書
○哈爾賓　大石鐵牛　刷初や若者競ふ輪轉機
○龍山　加村武次　刷初や讀る聲々も勇しく
○仁川　西島閑夢　初刷や旭の射す樣に小供達
○晉州　関凡人　笑ふ聲して初刷を奪ひ合ふ
○金泉　權藤潮香　投げ込めば初刷らしき響きして
○新義州　田島露晴　初刷や並ぶ文字みなおごそかに
○晉州　鎌倉風零子　初刷を爐にかざしたる老父かな
○淸州　村田桃里　初刷やどさと投げ込む門の口
○慶南成安　尾關千古　初刷や裏表なき鮮かさ
○仙臺市　橋本翠蟻　初刷や笑ふ聲する女部屋
○平壤　鳳澤逸溪　初刷や歌俳諧のひろひ讀み
○岐阜縣　花都紅鳳　旅人の初刷を買ふ車窓かな
○忠南全義　秋谷竹甫　初刷や眼鏡を掛けて母老いし
○仁川　捉佛　初刷の來たと障子を明けにけり
○水原　中馬精果　初到に祝ぎ參らする大御代や
○中江鎭　岡部兎城　初刷の感に堪へすや酒を呼ぶ
○朱安　久米稻香　初刷に集ふ一家の笑顏哉
○仁川　菊池緝村　濟々し初刷配る朝の鈴
○江景　石本靑石　初刷や端書と共に玄關へ



船舶鐵道貨物運送　安東縣江岸通　日韓組運送部　電話四一四番

安東窯業株式會社　安東縣大和橋通　電話一三三番

海陸運送業　安東縣二番通四丁目　西村組　電話二七三番

安東縣濱通　精米業　三省精米所　電話二〇二番

木材運搬業　南滿洲安東縣　二葉組

安東縣市場通六丁目　吳服太物商　滿洲屋吳服店　電話二〇七番

勤め先　滿洲安東株式商品取引所　自宅　安東縣六番通　來栖健助

滿洲安東縣大和橋通八丁目　滿洲商工株式會社　電話長六三九番　一七二番　支那電話三四〇番　電略マ又ハマン

安東縣　柳田宗三郎

安東ホテル　南滿洲安東驛前　主任　船津房吉　電話三八番　五一一番　五七八番　四七五番

安東縣市場通　貿易商　鈴鹿商店　安東縣出張所　電話九四番

安東縣六番通　木材商　土木請負　山口組　電話一〇一

安東縣六道溝　木材商　山田新助　電話四六九番　同六四一番

新義州濱町　新義州運送合資會社　北方商會　電話二五〇番

安東縣市場通　西洋雜貨　渡邊雜貨店　電話一〇五番　二九九番

諸鐵工業　大森鐵工所　安東縣大和橋通五丁目　電話二三一番

高等洋服　安東縣五番通　清水洋服店

安東縣濱通　荒川洋行　荒川六平　電話四六三番

安東縣五番通五丁目　速山ユキ　電話四二五番

新義州濱町　永井寛龍　電話一七〇番

新義州驛前　上田運送店　電話三二番

新義州驛前　末田運送部　電話一四二番

安東市場通五丁目　中村小間物店　電話三八八番

和洋雜貨　安東縣市場通　天下堂

安東縣市場通　龍雲堂藥局　藥劑師伊藤廣誠

安東縣市場通　印刷業　精美館　電話二五四番

新義州本町　大谷精米所　電話七一番

安東縣市場通五丁目　菓子製造貿易商　達磨商會　電話七〇番

安東縣二番通四丁目　土木建築業　青葉組　電話長四〇九番

齒科器械材料　安東縣六番通六丁目　京城南大門通　齒科商會　大連日米公司齒科品部　代理店

安東縣江岸通　安東運送株式會社　電話四七〇番

安東縣江岸通　安東海運株式會社　電話五九八番

安東縣江岸通三丁目　東亞木材興業株式會社　花戸貞一　電話五〇四番

安東縣南埠遊廓　貸座敷　隆海樓　電話二六四番

各種製材機械並ニ原木　安東縣二番通　安田商會　電話長六〇一番

安東縣六道溝　木材料棧　採公棧　電話一四一番

日華生命保險會社　滿洲監督　今村房吉　安東縣二番通り

安東木材合名會社　代表者　椿井三男　椿井仲買店

貿易商　安東縣大和橋　三巴商店　電話四八一番

安東縣大和橋通　松村洋行　電話二八

新義州常盤町　同支店　電話一七七番

株式會社　安東縣料理組合　安東檢番

株式會社　新義州銀行　電話五〇番

和洋御菓子司　安東縣市場通　横濱堂　電話一三三番

釜山綠町貸座敷營業組合事務所

釜山南濱町二丁目　御料理　重乃家　電話長五七二

釜山南濱町二丁目　御料理　待合亭　電話一〇一番

釜山幸町一丁目　御料理　加茂川　電話七〇一番

釜山南濱町二丁目　御料理　智戸勢　電話三六五番

釜山南濱町二丁目　御料理　芳千閣　電話三三三番

釜山南濱町二丁目　御料理　一福樓　電話三〇五番

釜山南濱町二丁目　御料理　一乃家　電話九〇九番

京釜線大田　劇場　大田座

京釜線大田春日町一　福田吳服店　電話一六二番

京釜線大田春日町　運動具　玩具　小間物　村上商店

京釜線大田本町一　文房具　博多人形　運動具　本司商店　電話二六一番

京釜線大田本町一　戸木田齒科醫院　院長　戸木田海三

京釜線大田驛前　菓子製造　御小賣　村瀬風月堂　電話一四七番

京釜線大田驛前　內國通運株式會社　大田取引店　電話長一一八番

京釜線大田本町一　馬場洋服店

京釜線大田春日町　和洋雜貨　丸友洋品店　電話長一四九番

京釜線大田春日町　小橋自轉車店　電話長一二五番

京釜線大田春日町　北村寫眞館

京釜線大田春日町　靴鞄製造卸小賣　朝鮮皮具製造合資會社　電話長二六〇番

京釜線大田本町二丁目　南部京平商店　電話長四六番

京釜線大田春日町　獸肉商　畑牛肉店　電話長一二九番

京釜線大田本町二　金物商　土井深商店　電話長六五番

京釜線大田春日町　上田小間物店　電話長一一三番

大田警察署長　長谷川豐治　電話長一四五番

大田高等女學校長　佐々木信一

忠南　大田理髮業組合

京釜線大田榮町　米穀商　內田史一　電話長一四一番

京釜線大田本町　久納洋服店　電話長二〇番

京釜線大田榮町　藤廣商店　電話長一〇七番

京釜線大田春日町　煉瓦土管製造　安井工場

京釜線大田本町二　米穀商　精米業　若林商店　電話長四六番

大田憲兵分隊長　竹本正文

京釜線大田本町二　米穀商　石田亭商店　電話長一三番

京釜線大田本町一　文房具　育英堂　電話長一四八番

京釜線大田驛前　文房具　運動具　鈴木書店　電話長三〇番

京釜線大田　大田飮食店組合

京釜線本町二丁目　鐵物商　扇喜代次郎商店　電話長六一番　農場電話二四九番

京釜線大田本町二丁目　米穀商　淺谷商店　電話長一〇番

京釜線大田本町一　米穀　精米業　出野商會　明治生命保險　東京火災保險　大田代理店　電話長一九番

釜山大廳町二丁目　木炭　肥料　商　小林商會　電話長一一四番

釜山大廳町　內外雜貨卸商　野老山商會　電話長八八二番

釜山府大廳町　米穀雜穀仲介業　エスケー組　電話長一一二番　長六四二番　長四四二番　長七〇六番　穀物市場

米穀雜穀委託販賣　現物先物賣買　釜山府本町四丁目　松尾商店　電話長一〇五番　長二〇九番

米穀貿易商　釜山本町四丁目　福島合資會社　電話長五〇三番

釜山大廳町一丁目　株式會社明治屋　電話三四八番

綿布綿糸商　釜山本町四丁目　三忠商店　電話長四一八番

洋酒罐詰卸商　釜山辨天町（長手通）　あづまや商店

內外雜貨卸商　釜山本町四丁目　近藤商店　電話七六八

貿易商　釜山本町　中馬合名會社　中島富助

綿布綿糸商　釜山府本町三丁目　松前釜山出張所　電話長四一三番

銅鐵鋼諸機械　釜山本町三丁目　福田又釜山支店　洋鐵、針丹、釘金、洋針銅、平板、錫、鉛板、鉛　電話長二〇二番　振替京城四六九番　■相場表御申越次第送付可仕候

乾物、糖粉、罐詰食料品、雜貨卸商　釜山大廳町　山西合名會社　電話長七〇四番

貿易商　釜山本町二丁目　井谷儀三郎　電話長二〇二　五五番

寛永御前試合

第一八七席　少金井芦洲講演

鯔背野郎も名殘り惜氣に後姿を見送つて居ります。伜五郎はお年も若いし血氣盛であるから、御足も隨つて早い、スタ／＼スタと江戸の地も出外れて、熊谷までは十六里あると申すが、十六里ばかり歩いて歩けない事もなからう、歩くのも修業の一つである、日の暮る迄に十六里突破して見やうと恐ろしい勢ひでドン／＼やつて來る 伜『オイ／＼ 〇『ヘエ 伜『それから熊谷まで何の位あるな 〇『左様でございます。熊谷まではモウ二里半ばかりもございませうかな、伜『アヽ左様か、千萬忝けない』二里半ばかり何んでもない、足に任せてドン／＼やつて來る、二里半ばかり來たと思ふ頃 伜『アヽこれ／＼百姓、一寸其方に聞きたいことがある ×『アノ何んでがす 伜『是れから熊谷までは何の位あるな ×『然うでごぜえますな、また一寸二里半もありますべえ 伜『何に、二里半ばかりある……此の先で聞いたらば二里半あると申したから急いで參つたのであるが何うも可怪いな、その儘立停つて居る譯ではない、ドン／＼歩いて居るのであるが、何うも可怪い確に二里半あるか ×『旦那さまお前さま嘘吐くべエ、二里半あるからあると云ふのでがす、嘘吐いたつて一文にもなりますめえ 伜『此の野郎怒惜から先きへかゝつて居やがる』ドン／＼やつて來る 伜『アヽこれ／＼其處へ往く女 女『ハイ、何んでござますだ 伜『これ／＼變な聲を出すな、變な聲を…… 女『ヒヽヽお婆の聲でがアす此れ婆の地聲でがアす 伜『アハツ／＼ハツ驚いたな何うも、時に熊谷まではまだ餘程あるか 女『然うでがアす、まだ些つくり二里もありますべエ 伜『エヘ二里ある、何うも此奴は愈々可怪いわい、彼那に稼ッせと歩いて何處まで往つても二里だ二里半と云やアがる、間違つて後へ退つたり、立濟まつたりして居る氣遣ひもないが、不思議だわい』ドン／＼やつて來る物の二里も來たと思ふ時道の傍らに一軒の腰掛の掛茶屋がございます 伜『アヽ草臥れた、一服やつて往から……アヽ許せよ 爺『入來つしやいまし』年頃五十七八のお爺さんが掛けたお盆の上へ澁茶を一杯汲んで出す 伜『アヽ爺さんや 爺『ハイ 伜『熊谷までは餘程あるかな、爺『左様でございます、熊谷までは既う直でございます 伜『何に直だ、爺『ヘエ……エヽ向ふの方に並木があつて、彼の三本目の樹の間から白い藏のやうなものがチラ／＼見えませう 伜『ウム／＼ 爺『彼れが熊谷の宿でございます 伜『アヽ左様か、千萬忝けない 爺『モウ此處まで入來つしやれば熊谷の宿へお這入りになつたも同然でございます 伜『大きに忝けない、マア／＼好い鹽梅だ、アヽヤレ／＼草臥れた、足が棒の様になつて終つた、時に爺モウ何時だな、爺『左様でございます、モウ彼是夕四時少々過ぎでございませうか 伜『ハヽア暮うなるかな、アヽ日と暮の競爭然う續くこともあるまい、悠々と御休息を遊ばしまして……エヽ旦那樣今日は、何方からお越しになりました 伜『江戸の品川を立つて參つた 爺『品川を……ヘエ左様でございますか 伜『アヽ僞りは申さぬ 爺『ヘエー驚きましたね旦那樣江戸の品川と申せば東海道五十三次の初ッ端で双六の賽子の振出しで…… 伜『アヽ然う／＼ 爺『その品川からお入來になつたんで 伜『ウム 爺『ヘエ何んといふ恐ろしい御丈夫の御足でございませう、品川から熊谷までは旦那樣十六里でございますよ、能く／＼まアお歩きなさいました、定めしお草臥れでございませう 伜『アハッ／＼ハッ少々草臥れた……時に爺モウ一杯茶を與れ 爺『サヽ何うぞ澤山お召し上がり下さいまし、餘まり宜いお茶でもございませんが……エヽ旦那樣お旅はお初めてゞございますか 伜『アヽ始めてだ』掛茶屋の親爺と四方山の話をして居る處へ『御免よ、爺さん 爺『オヤ旦那樣入來つしやいま

川柳　井上劍花坊選

し、結構なお天氣でございます 〇『良い天氣だのう』

○黄金町　未成子
戀などは知らないうちに男好き
○黄海道　三七
戀女房持つて喧嘩をしてくらし
○仁川　三林坊
新聞を讀むうち戀を教へられ
○京城　死ロ
中年の戀に新義州出來
○禿道　不知坊
初戀と不束の間に春は行く
○寧邊　貞久
片思ひ狂女の歌ふ唄の節
○京城　大許
ほんとうの戀を知らない許鱗
○京城　甲
戀の味ちよつと口ではいへぬ也
○京城　大
戀は曲者先生が甲をく馬
○東拓　無念坊
不圖の乳母が結ぶの神にされ
○本町　沈殿子
名門に生れて戀のまゝならず
○高橋　甜
やとなしくなつた頃から戀を知り
○平北　ヨモギ
兄さんの御友達より妹の山
○龍山　まさ子
人並の道が歩るけぬ二人連れ
○京城　王山
不發者を戀の勝利者なぞとほめ
○本町　露光
助教授も博士も戀にかゝられず
人間の一度は通る戀の道
初戀は淺瀬を下る小舟なり

家庭療法

小豆は乳を出す

婦人で乳の出かたの少い方は赤小豆をよく煮て砂糖と食鹽で味附したものを毎日食事の後三十分を經る毎に一回に五勺か一合づゝ食て見ますと數日ならずして乳の出が良くなります。其他赤小豆は血行を促し腫滿や脚氣等を治し腸や胃腸を丈夫にする効があります。

一月六日

(舊曆十二月十日)
▲金曜日▲甲戌▲八白▲友引▲牛宿▲開▲小寒

▼八白▲如何焦慮つても効果なく油斷なり難き日遠方への旅行は見合せ
▼九紫▲引込思案の生じ易き日大に元氣を出して働けば存外利得がある
▼一白▲人の言に從つて進退する時は不測の禍ひを招く世話事一切禁物
▼二黒▲無事に過ぎて吉日常の事は妨げなきも新事は見合せ
▼三碧▲内にも外にも纏れ多く油斷できぬ日新しい取引は見合するが利
▼四綠▲氣ばかり急いても物事捗り難く職業大敗を來す事あり注意
▼五黄▲概して順調の日なれども午後は諸事手控へて利欲に心を戒む
▼六白▲諸事期待に背かず至極順調に運ぶべく進むほど大利を占める日
▼七赤▲運氣盛大の日何事にも逡巡はず進取的行動に出でゝ吉待人來る

一月七日

(舊十二月十一日)
▲土曜日▲乙亥▲九紫▲暗劍南方▲先負▲女宿▲開

▲九紫▲他人困らせのと迎り易く目的の成り難し新事は惡しく見合せて利
▼一白▲思ふたほど利益にならぬ日片寄らざれば概して無事
▼二黒▲至つて順調の日何事も意のまゝに運ぶ金錢上の問題は殊更に吉
▼三碧▲頭から壓へつけらるゝ如き日勤め深く職業を守りさへせば無難
▼四綠▲盛運にて愉快な日移轉旅行結婚其他女子の職業を爲つて妙
▼五黄▲何事にも逆らはざれば結運の自然に廻つて來る日常の事上首尾
▼六白▲他人との間に不和生じ易き日總じて進退其他諸事一切禁物
▼七赤▲氣後みを生じ大敵を醸す事あり愼みが肝腎遠方への旅行見合せ
▼八白▲思はず長上の引立を受けて出世の端緒を得る日何事にも吉

京元線　南大門元山間

西洋御料理、電氣鋤焼 神仙爐 カフエーミカド 平壤府南門町 電話一七八番

平壤大和町 桑田信助商店 長一六三番 長八五一番

平壤南門町 秋鹿陶器店 電話二三番 同大和町 秋鹿支店 電話六六四番

平壤專賣支局 廣梁灣出張所

平壤 石隈信乃雄

龍岡溫泉旅館組合 靜養館 只繩旅館 三吉旅館

平壤 一柳村五郎 電話二〇九番

平壤府黃金町 福莊商會 長途電話四二七番 四二八番 自宅長四六七番

平安南道价川驛前 安州館 支店

平壤郵便局 職員一同

平壤 信託株式會社

全羅北道 食堂俱樂部員

全北井邑警察署長 園田爲幸

全北金堤 桝富農場

全北井邑郵便所長 玉木艮

全州驛前 高榮組全州出張所 電話一七二番

全州多佳町 清水組土木事務所

全北井邑 富士辰旅館

全北金堤 阿部農場 奧村竹三郎

東山公立普通學校 山中辰之允

全州大正町四丁目 辯護士 法學士 木尾良清

全州會社團 十五日會

全州本町三丁目 平野屋旅館 電話二四〇番 增築家屋の落成と共に室内の清潔は勿論庭には築山も出來ましたので到に倍しての御來館御引立の程を願ひ致します

水原電氣株式會社

水原 藤澤亮

水原驛前 米雜穀倉庫業精米 寺澤捨三郎 電話一一四番 同一三五番

京釜線烏山驛前 米雜穀肥料商 奧井定吉商店 電略(オ)又ハ(オクキ)

京釜線烏山驛前 米雜穀肥料商 森本文五商店 電略(モ)又ハ(モリ)

朝鮮京釜線烏山 米穀商 笠田寛二

朝鮮京釜線烏山 信古定次郎商店 振替口座京城二六五番 電略(ノ)又ハ(ノブ)

京釜線烏山 米穀商 福澤商店

烏山醫院

京釜線烏山 穀物商 林盛郁

京釜線烏山 菊川運送部

京釜線 烏山金融組合 振替口座京城六一三番

京釜線烏山 烏山牛皮改良組合

平澤穀物貿易組合 繩叺部 電略へ

內國通運株式會社平澤取引所 廣安號運送店 森旅館 主 森啟

元山郵便局 橋川克彦 浦田仙三 土岐亨 松浦吉 難波量義 大屋正厚

大邱 御料理 大和 電話三五番

大邱府本町 貿易商 松前商店 電話長一六三番 京城出張所(電話長二六三四番) 釜山出張所(電話長四一三番) 金泉出張所(電話長一七番)

大興電氣株式會社 大邱府東雲町

大邱 御料理 明石 電話五七番

大邱土木建築組合

慶尚北道 勸業課員一同 農務課員一同

慶尚北道畜產同業組合 慶尚北道果物同業組合 慶尚北道農會

大邱府錦町 東亞燐寸株式會社 電話長四五九番 京城特約店 株式會社共進商會 電話長三〇一九番

大邱 御料理 原竹 電話四六七番

慶尚北道警察部長 新庄祐次郎

大邱府 伊藤吉三郎

大邱府上町 平野製靴店 電話四二一番

大邱公立高等女學校職員一同

大邱郵便局長 成田新助

慶尚北道 高等官一同

大邱高等普通學校長 高本千鷹

大邱府八重垣町 大梅 電話三六四番

大邱府上町 木村時計舖 電話九五番

大邱府元町 東京堂時計店 電話二三一番

大邱商業會議所 佐瀬直衛

大邱府八重垣町 吾妻樓 電話四〇一番

大邱印刷合資會社 吉武甲子男

歸省中に付年賀缺禮仕候 龜岡榮吉 京釜線鳥致院

鳥致院公立普通學校長 小池源藏

鳥致院公立小學校長 池端波次郎

鳥致院水曜會 燕岐郡庶務主任 石橋盛枝 殖産銀行支店長 岩倉守男 實業銀行支店長 富岡靜三 法院出張所主任 岡本銑三郎 共倉庫支配人 小栗直臣 鳥致院面長 竹下剛 燕岐郡守 永松茂洲 鳥致院學校組合長 内野穣 鳥致院金融組合理事 福永喜八 鳥致院驛長 櫻井文太郎 燕波金融組合理事 佐下橋鉾次郎 燕岐郡財務主任 廣瀬慶治

自働車 自動自轉車 部分品 片岡商會 京釜線鳥致院 電話七五番

京釜線鳥致院 木材 石材 燃料 益田材木店 電話一〇番

京釜線鳥致院 丸島運送店 電話三五番

京釜線鳥致院 重松旅館 電話一九番

忠清道評議員 今村德重 京釜線鳥致院 電話三〇番

京釜線鳥致院 共立倉庫物產株式會社 電話四五八番

京釜線 米穀貿易商 辻川喜助 電話九番

京釜線鳥致院 ㋡運送店 電話二三番

鳥致院松商石油組合 辻川喜助 岡沼太郎 中井留四郎

鳥致院穀物協會 電話四〇番

京釜線鳥致院 吉成呉服店 電話二〇番 同天安 電話六一番 吉成支店

京釜線鳥致院 佐々木呉服店 正八位 佐々木治八郎

京釜線鳥致院 福永精米所 電話三九番